

「令和5年度全国学力・学習状況調査」の
結果について

令和5年8月24日（木）

富山市教育委員会

目 次

I	本調査の目的	1
II	実施状況	1
III	教科に関する結果の概況	
1	教科区分別平均正答率 (%)	1
2	結果の概要	1
IV	本調査結果の考察	
1	教科に関する調査の結果から	
(1)	小学校国語	2
(2)	小学校算数	4
(3)	中学校国語	6
(4)	中学校数学	8
(5)	中学校英語	10
2	児童生徒質問紙調査の結果から	12
3	学校質問紙調査の結果から	14
V	今後の取り組み	
1	調査結果の取り扱い	16
2	教科に関する調査と児童生徒質問紙調査、及び 学校質問紙調査の関連	16
3	授業改善に向けた指導の重点	20
	〈資料〉	
1	教科区分別平均正答率の推移	資料一 1
2	小学校6年生 設問別結果一覧	資料一 4
3	中学校3年生 設問別結果一覧	資料一 8
4	児童生徒質問紙調査	資料一 14
5	学校質問紙調査	資料一 20

「令和5年度全国学力・学習状況調査」の結果概況について

富山市教育委員会

I 本調査の目的

- 1 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 2 市教育委員会が、全国的な状況との関係において、本市の教育の結果を把握し、改善を図る。
- 3 各学校が、自校の児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

II 実施状況

- 1 実施期日 令和5年4月18日(火)
- 2 調査内容 教科に関する調査 国語、算数・数学、英語(中3のみ)
質問紙調査 児童生徒、学校
- 3 実施学校数、実施児童生徒数

小学校6年		中学校3年	
実施学校数	実施児童数	実施学校数	実施生徒数
64校1分校	3,075人	25校1分校	3,080人

III 教科に関する結果の概況

- 1 教科区分別平均正答率(%)

	小学校6年		中学校3年		
	国語	算数	国語	数学	英語
富山市	69	65	71	54	48
富山県	69	65	71	54	46
全国	67	63	70	51	46

- 2 結果の概要

- ・小学校について、平均正答率を全国と比較すると、国語、算数ともに2ポイント上回っている。
- ・中学校について、平均正答率を全国と比較すると、国語は1ポイント、数学は3ポイント、英語は2ポイント上回っている。
- ・平均正答率を県と比較すると、小学校では国語、算数ともに同等である。中学校では国語、数学では同等であり、英語は2ポイント上回っている。

IV 本調査結果の考察

1 教科に関する調査の結果から

(1) 小学校国語

<集計結果>

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
 ○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
 ■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
 ▲ 全国及び県を下回る領域・観点

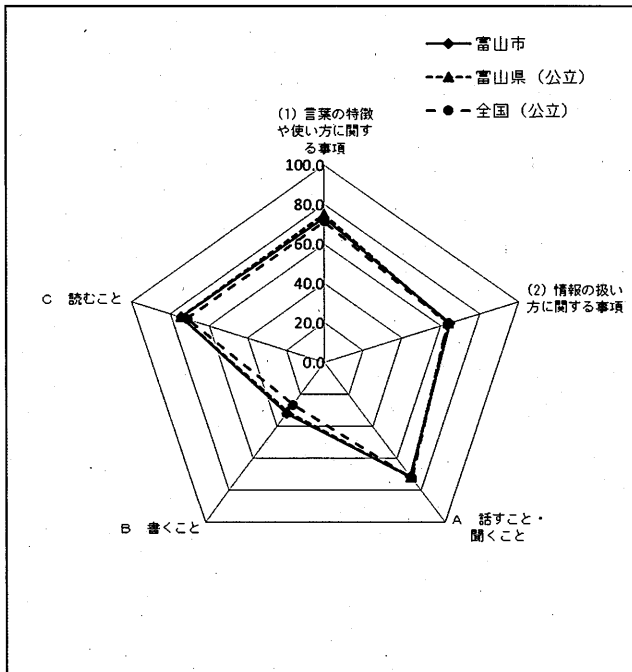
平均正答率 (%)	富山市	富山県	全国
	69	69	67.2

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)			
			富山市	富山県	全国	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	○	73.4	74.8	71.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	◎	64.5	63.7	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項				
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	▲	71.6	72.3	72.6
		B 書くこと	◎	32.2	31.0	26.7
		C 読むこと	○	74.1	74.2	71.2
評価の観点	知識・技能	7	○	70.9	71.6	68.9
	思考・判断・表現	7	○	67.0	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	9	◎	75.2	74.9	73.6
	短答式	2	○	66.8	69.5	62.7
	記述式	3	○	51.7	53.0	51.1

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>

<結果の概要>



○ 平均正答率を全国と比較すると、1.8ポイント上回っている。また、「思考力・判断力・表現力等」の「話すこと・聞くこと」以外の内容、評価の観点、問題形式で全国を上回っている。

● 内容の「思考力・判断力・表現力等」では、「話すこと・聞くこと」において、全国より1ポイント、県より0.7ポイント下回っている。

● 平均正答率を富山県と比較すると、最も大きな差があるのは、内容「知識及び技能」の「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」で1.4ポイント、問題形式では、短答式が2.7ポイント下回っている。

(凡例:○よい点、●指導の改善が望まれる点)

(2) 小学校算数

<集計結果>

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

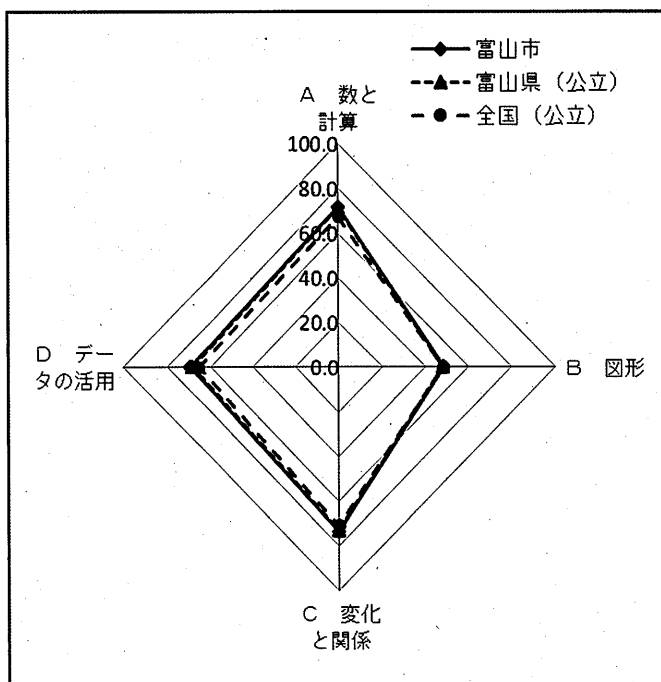
凡例 ○ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
 ○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
 ■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
 ▲ 全国及び県を下回る領域・観点

平均正答率 (%)	富山市	富山県	全国
	65	65	62.5

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)			
			富山市	富山県	全国	
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	◎	71.7	71.4	67.3
	B 図形	4	○	48.5	48.0	48.2
	C 測定	0				
	C 変化と関係	4	◎	73.2	72.7	70.9
	D データの活用	3	◎	69.5	68.3	65.5
評価の観点	知識・技能	9	◎	69.6	69.0	67.2
	思考・判断・表現	7	◎	59.8	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	5	◎	61.2	60.5	57.7
	短答式	7	◎	77.0	76.5	74.7
	記述式	4	◎	49.9	49.6	47.3

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 全国の平均正答率と比較すると、2.5ポイント上回っており、全ての領域や評価の観点、問題形式で全国を上回っている。
- 領域ごとの平均正答率は、「A 数と計算」で4.4ポイント全国を上回っている。
- 評価の観点ごとの平均正答率は、「思考・判断・表現」で3.3ポイント全国を上回っている。
- 問題形式ごとの平均正答率は、「選択式」が3.5ポイント全国を上回っている。
- 平均正答率は、全国、県を上回っているとはいえ、領域「B 図形」が48.5ポイント、問題形式では「記述式」が49.9ポイントと決して高くはない。

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

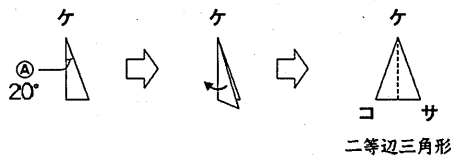
<考察及び今後の指導について>

(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

- 区分「変化と関係」は、平均正答率が73.2%と4つの区分の中で最も高い。「伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、数を求める問題」では、平均正答率は95.3%で、全ての問題の中で最も高い。変化の特徴を考察して規則性を見つける基本的な技能が身につけている。 (問題1(1))
- 「式を場面と関連づけて読み取る問題」では、平均正答率は全国を4.1ポイント、県を0.6ポイント上回った。()を用いた式、加法と乗法を混合した式の二通りの問題解決の方法があることを理解し、その式の意味を読み取っている。場面に応じて式でのよりよい表現を考えることができるように、思考力を高める学習を継続したい。 (問題3(1))
- 区分「数と計算」において「(2位数)÷(1位数)の筆算について、各段階の商の意味を考える問題」では、平均正答率が全国を6.2ポイント上回った。計算に関して成り立つ性質を見だし、筆算を図と関連づけて考えるなど、計算の仕方などを考察する力が育っている。 (問題3(4))
- 区分「図形」の「正三角形の意味や性質について理解しているかどうかみる問題」では、平均正答率が全国を2.3ポイント下回り、22.6%であった。示された操作から、正三角形をつくるために角の大きさが半分になることをとらえることができなかつたと考えられる。図形の性質について、図形の観察や具体物を操作するなどの活動を通して理解を深めるような学習の工夫が大切である。 (問題2(3))
- 区分「図形」の「高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を記述する問題」では、平均正答率が20.7%であり、全ての問題の中で最も低い。面積の大小の判断はできるが、その理由が不十分であったことがうかがえる。基本図形の面積の求め方について操作活動を通して理解を深めるとともに、考えの理由を説明するなどの言語活動の充実が求められる。 (問題2(4))
- 「二つのグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述する問題」では、無解答率が14.9%であり、全ての問題を通してこの問題が最も高い。複数のグラフを比較し、データの特徴を見いだしたり、考察したりするなど、データを整理する学習の機会を適切に設ける必要がある。 (問題4(3))



私は、㉔の角の大きさを20°にしました。切って開いた三角形ケコサは、二等辺三角形になりました。

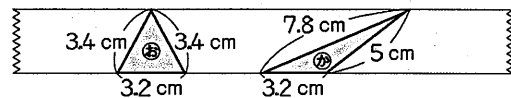


私は、切って開いた三角形を正三角形にするために、㉔の角の大きさをゆいさんとちがう大きさにして切りました。

切って開いた三角形を正三角形にするには、㉔の角の大きさを何度にするればよいですか。

答えを書きましょう。

- (4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㉕と㉖の2つの三角形をつくります。



上の㉕と㉖の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだだけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㉕の面積のほうが大きい。
- 2 ㉖の面積のほうが大きい。
- 3 ㉕と㉖の面積は等しい。
- 4 ㉕と㉖の面積は、このままでは比べることができない。

(● 問題2(3) 正答率22.6%)

(● 問題2(4) 正答率20.7%)

(3) 中学校国語

<集計結果>

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

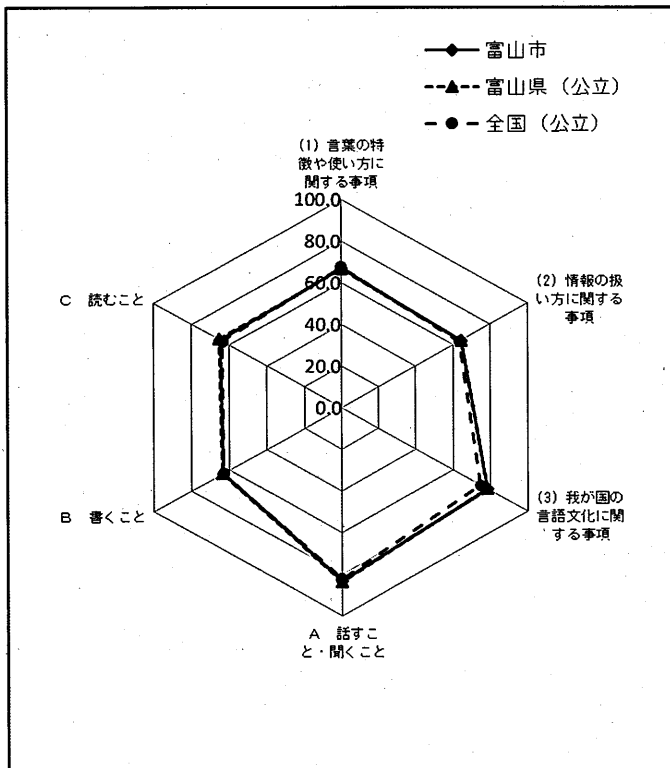
凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
 ○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
 ■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
 ▲ 全国及び県を下回る領域・観点

平均正答率(%)	富山市	富山県	全国
	71	71	69.8

分類	区分	対象問題数(問)	平均正答率(%)			
			富山市	富山県	全国	
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	■	66.9	66.2	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	◎	64.3	64.3	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	◎	78.5	78.5	74.7
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	○	83.4	83.6	82.2
		B 書くこと	○	63.5	63.7	63.2
		C 読むこと	○	65.1	65.6	63.7
評価の観点	知識・技能	7	◎	71.1	70.9	69.4
	思考・判断・表現	9	○	70.9	71.2	69.7
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	7	◎	74.1	74.1	73.1
	短答式	4	◎	67.2	66.8	65.6
	記述式	4	○	69.1	69.9	68.0

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 平均正答率を全国と比較すると1.2ポイント上回っている。「知識及び技能 (1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」以外の領域、評価の観点、問題形式別で全国を上回っている。
- 領域別の平均正答率は、「知識及び技能 (3) 我が国の言語文化に関する事項」において、全国を3.8ポイント上回っている。
- 平均正答率を県と比較すると、領域では、「C読むこと」で0.5ポイント、問題形式では、記述式が0.8ポイント下回っている。

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

- 区分「(3) 我が国の言語文化に関する事項」の「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる問題」は、正答率が88.8%、全国平均を6.3ポイントと最も大きく上回っている。文語のきまりに関する知識・技能が定着していることがうかがえる。(問題4一)
- 区分「読むこと」の「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる問題」では、全国平均を4.5ポイント上回っている。内容を正確に理解するだけでなく、自分の経験と照らし合わせ、今後どのように読書を行っていくか具体的な解答が求められた。授業で文章を読む際は、「何のために読むのか」という目的を明確にした「読むこと」の指導を継続したい。(問題2四)
- 区分「(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項」の「文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる問題」の正答率は42.8%と全問題の中で最も低く、全国平均を1.1ポイント下回っている。漢字の形そのものを知っていても、自分があまり目にしない文脈で用いられると、漢字が思い浮かばないという傾向がある。漢字の学習では、同じ熟語を繰り返し練習するのではなく、その漢字の成り立ち、熟語等の意味を理解したり、生活場면을想起して活用したりする必要がある。(問題3二)
- 区分「読むこと」の「文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題」の正答率は49.3%と全問題の中で2番目に低く、全国を0.7ポイント下回っている。さらに、無解答率は23.4%と全国平均を2.7ポイント上回っている。「二つの文章を読んで考えをもつ」「引用して考えを書く」という点は問題2四と同じであるが、本問題は正答率が低い。つまり、表現の工夫について考えをもつということに課題があると考えられる。文学的な文章においてはよく指導されているが、説明的な文章や古典においても表現に着目させたい。また、領域を問わず、記述式の解答における無解答率が全国より高い傾向にある。一人1台端末の導入により、授業の中で一人一人がどのような考えを形成し、表現しているかを把握することが容易になった。まずは、一人1台端末を活用することで、生徒が文章で表現することに対する抵抗感を減らしたい。そして、生徒による端末への書き込みから、一人一人の到達度やつまずきを把握することで、より生徒の実態に沿った支援を行っていきたい。(問題4三)

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<p>④ 学校図書館で見つけた「竹取物語」の二巻</p> <p>『原文』</p> <p>今昔竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつづ、よろしのことにほひけり。名をば、さぬきの翁と名をいひける。その竹の中に、もと光る竹をば一筋ありける。あやしがりて、嘗りて見た、竹の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとつくろくろくたり。</p> <p>『現代語訳』</p> <p>今ではもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。野や山に分け入って竹を取っては、いろいろなことに使っていた。名前を、さぬきのみやうとつけた。その竹の中に、振もとの光る竹が、本あった。不思議に思つて、近寄つて見ると、節の中が光っている。それを見ると、三寸ほどの人が、とてもかわいらしい様子で座っている。</p>	<p>④ 学校図書館で見つけた「竹取物語」の二巻</p> <p>『原文』</p> <p>今昔竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつづ、よろしのことにほひけり。名をば、さぬきの翁と名をいひける。その竹の中に、もと光る竹をば一筋ありける。あやしがりて、嘗りて見た、竹の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとつくろくろくたり。</p> <p>『現代語訳』</p> <p>今ではもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。野や山に分け入って竹を取っては、いろいろなことに使っていた。名前を、さぬきのみやうとつけた。その竹の中に、振もとの光る竹が、本あった。不思議に思つて、近寄つて見ると、節の中が光っている。それを見ると、三寸ほどの人が、とてもかわいらしい様子で座っている。</p>	<p>④ 学校図書館で見つけた「竹取物語」の二巻</p> <p>『原文』</p> <p>今昔竹取の翁といふものありけり。野山にまじりて竹を取りつづ、よろしのことにほひけり。名をば、さぬきの翁と名をいひける。その竹の中に、もと光る竹をば一筋ありける。あやしがりて、嘗りて見た、竹の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとつくろくろくたり。</p> <p>『現代語訳』</p> <p>今ではもう昔のことだが、竹取の翁という者がいた。野や山に分け入って竹を取っては、いろいろなことに使っていた。名前を、さぬきのみやうとつけた。その竹の中に、振もとの光る竹が、本あった。不思議に思つて、近寄つて見ると、節の中が光っている。それを見ると、三寸ほどの人が、とてもかわいらしい様子で座っている。</p>
--	--	--

●問題4三
正答率49.3%

(5) 中学校数学

<集計結果>

・以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

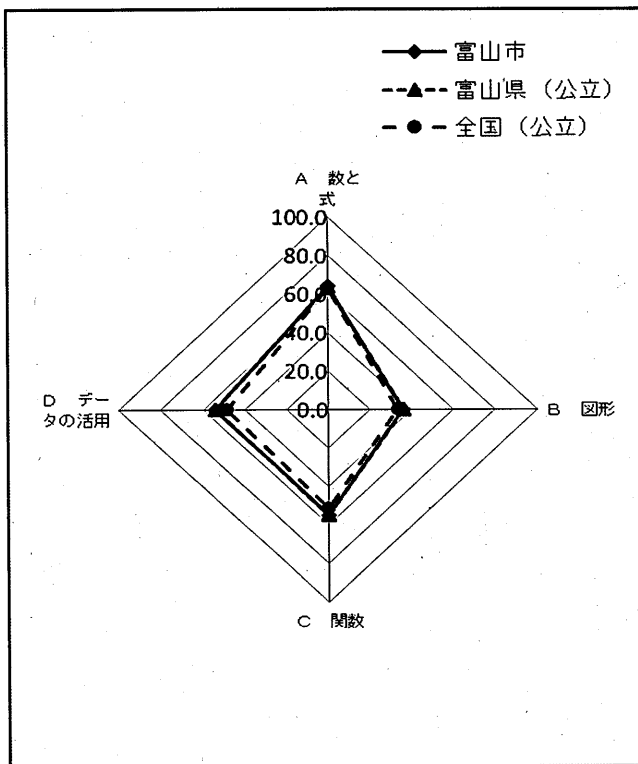
凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
 ○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
 ■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
 ▲ 全国及び県を下回る領域・観点

平均正答率 (%)	富山市	富山県	全国
	54	54	51.0

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領の領域	A 数と式	5	◎ 64.1	63.7	63.0
	B 図形	3	○ 35.6	35.8	33.2
	C 関数	4	◎ 55.0	54.5	51.2
	D データの活用	3	◎ 53.8	53.8	48.5
評価の観点	知識・技能	10	◎ 58.1	57.9	55.7
	思考・判断・表現	5	◎ 45.5	45.1	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	◎ 47.8	47.0	45.3
	短答式	6	○ 65.0	65.2	62.6
	記述式	5	◎ 45.5	45.1	41.6

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 全国と平均正答率を比較すると、3.0ポイント上回っている。また、全ての領域や評価の観点、問題形式で全国を上回っている。
- 領域ごとの平均正答率は、「データの活用」で5.3ポイント全国を上回っている。
- 観点ごとの平均正答率は、思考・判断・表現で3.9ポイント全国を上回っている。
- 問題形式のうち、「選択式」の問題の平均正答率は47.8%、「記述式」の問題の平均正答率は、45.5%といずれも50%に満たない。

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

<考察及び今後の指導について>

(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

- 区分「数と式」の平均正答率が64.1%と4つの区分の中では最も高い。二元一次方程式を解いたり、具体的な場面で正負の数を用いて計算したりするなどの基本的な知識及び技能が身につけている。
- 区分「数と式」では、「問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる」問題の正答率が89.5%であり、本調査の中で最も高い。 (問題6(1))
- 区分「データの活用」の「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる」問題の正答率は全国と比較して11.3%高い。 (問題7(2))
- 問題形式の中で「記述式」の5つの問題のうち2つの問題は、無解答率が20%以上と高く、記述式の問題に対する苦手意識がみられる。問題解決的な学習や実生活における数学的な課題を取り入れ、筋道を立てて考えたり説明したりする数学的活動を積極的に行い、数学的な思考力・判断力・表現力を育成することが大切である。
- 区分「図形」の「ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる」問題は、正答率が34.4%と低く、無解答率が24.4%と高い。「 $\triangle ABC \equiv \triangle CEA$ であることから、合同な図形の対応する角は等しい」ことを根拠として、 $\angle BCA = \angle EAC$ を証明し、「錯角が等しい」ことを根拠として $BC \parallel AE$ を証明する問題である。作図したり図形を操作したりするなどの数学的活動の場を設け、筋道を立てて考えることや根拠を明確にして言葉で表現する学習を行うことで、図形の性質についての理解を深め、知識の定着を図ることが大切である。 (問題9(1))
- 区分「数と式」の「自然数の意味を理解しているかどうかをみる」問題の正答率は44.3%であり、全国と比較して1.8%低い。正の数や負の数の範囲で数の集合をとらえ直す場面を設定し、数学的活動を通して自然数や整数、素数等の意味を理解できるように指導することが大切である。 (問題1(1))

9 次の図1のように、 $CA = CB$ の二等辺三角形 ABC と、 $\triangle ABC = \triangle DEF$ となるような $\triangle DEF$ の2つの三角形を厚紙で作ります。

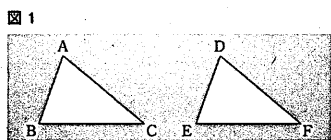
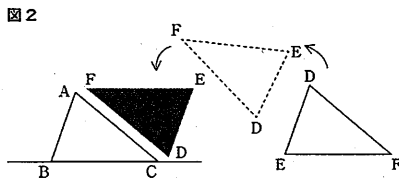


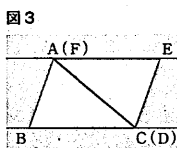
図1の2つの三角形の厚紙を使って、次の方法1と方法2でそれぞれ2つの直線をひきます。

方法1

◇ $\triangle ABC$ を置いて、直線 BC をひく。そして、図2のように、 $\triangle DEF$ を回して、点 F を点 A に、点 D を点 C に重ねる。

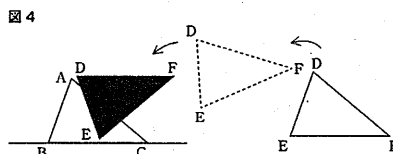


◇ 図3のように、点 A と点 F が重なった点を A として、直線 AF をひく。また、点 C と点 D が重なった点を C とする。

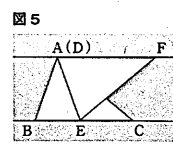


方法2

◇ $\triangle ABC$ を置いて、直線 BC をひく。そして、図4のように、 $\triangle DEF$ を回して、点 D を点 A に、点 E を直線 BC 上に置く。ただし、点 E は点 B と重ならないように置く。



◇ 図5のように、点 A と点 D が重なった点を A として、直線 AF をひく。



優奈さんは、方法1の直線 BC と直線 AE 、方法2の直線 BC と直線 AF がそれぞれ平行になるのではないかと考え、調べることにしました。

次の(1)、(2)の各問に答えなさい。

(1) 優奈さんは、前ページの方法1の直線 BC と直線 AE が平行になるかどうかを調べるために、右の図6をかきました。図6の $\triangle ABC$ と $\triangle CEA$ は、それぞれ $CA = CB$ 、 $AC = AE$ で、 $\triangle ABC \equiv \triangle CEA$ です。

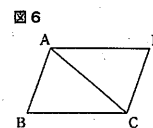


図6において、 $BC \parallel AE$ であることは、すでにわかっている $\triangle ABC \equiv \triangle CEA$ をもとにして、同位角または錯角が等しいことを示すことで証明できます。 $BC \parallel AE$ であることを証明しなさい。

(●問題9(1) 正答率34.4%、無解答率24.4%)

(5) 中学校英語

<集計結果>

以下の集計値は、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

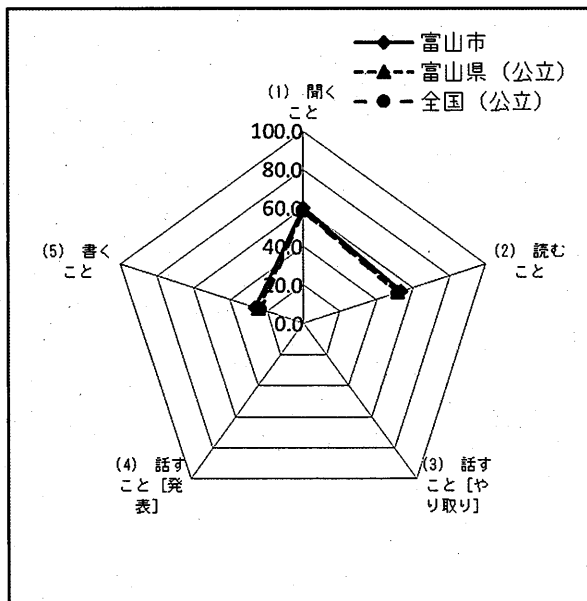
凡例 ◎ 全国・県を上回る、もしくは県と同等の領域等・観点
 ○ 全国を上回るものの、県を下回る領域等・観点
 ■ 全国を下回るものの、県を上回る領域等・観点
 ▲ 全国及び県を下回る領域・観点

平均正答率 (%)	富山市	富山県	全国
	48	46	45.6

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			富山市	富山県	全国
学習指導要領 の領域	(1) 聞くこと	6	◎ 60.0	58.7	58.4
	(2) 読むこと	6	◎ 53.2	51.8	51.2
	(3) 話すこと [やり取り]	0			
	(4) 話すこと [発表]	0			
	(5) 書くこと	5	◎ 26.3	24.8	23.4
評価の観点	知識・技能	9	◎ 54.1	52.4	51.5
	思考・判断・表現	8	◎ 40.5	39.4	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	12	◎ 56.6	55.3	54.8
	短答式	3	◎ 33.8	31.3	30.1
	記述式	2	◎ 15.1	15.0	13.5

※「学習指導要領の領域」と「評価の観点」については、一つの問題が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の問題数を合計した数は、実際の問題数とは一致しない場合がある。

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



<結果の概要>

- 全国と平均正答率を比較すると、2、4ポイント上回っている。また、全ての領域や評価の観点、問題形式で全国を上回っている。
- 領域ごとの平均正答率は、「読むこと」で2ポイント全国を上回っている。
- 領域「書くこと」において、平均正答率が50%を下回っている。
- 問題形式のうち「短答式」の平均正答率は33.8%、「記述式」の平均正答率は15.1%といずれも低い。

(凡例：○よい点、●指導の改善が望まれる点)

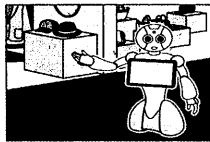
<考察及び今後の指導について>

(○は平均正答率の高い問題、●は平均正答率が低い問題から特徴的なものを選んで記述した)

- 「ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する問題」では、正答率が80.9%と全国と比べてやや高い。自然な口調で話される情報を正確に聞き取る力がついていることがうかがえる。 (問題1(1))
- 「ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する問題」と「事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する問題」では、正答率が59.4%、67.5%と全国と比べてやや高い。読む活動では、既得の知識を活用して情報を正確に読み取ったり、読む目的に応じて要点を把握したりする指導を継続したい。 (問題5(1)(2))
- 「日常的な話題について、設定された状況から判断して、必要な情報を聞き取る問題」では正答率は40.8%と全国に比べてやや低い。コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて必要な情報を聞き取ったり、何が自分にとって必要な情報であるのか判断した上で聞き取ったりする活動を日ごろから積み重ねることが大切である。 (問題3)
- 「文と文の関係を正確に読み取り、短い文章の概要を捉える問題」では、文中の空所に入る適切な語句を選択する問題の正答率が59.7%と全国と比べてやや低い。また、「概要としてもっとも適切なものを選択する問題」では、正答率が34.9%と全国と比べてやや高いが、他の問題に比べ、正答率が低い。まとまりのある文章を、最初から最後まで通して読む機会をできるだけ多く設定し、目的や場面、状況に応じて、概要をとらえる読み取りについての活動を継続して行い、学習を積み重ねることが大切である。 (問題7(1)(2))
- 「社会的な話題について、短い文章の要点を捉えて、それに対する自分の考えとその理由を書く問題」では、平均正答率が21.9%と低く、無回答率は27.9%と最も高い。書かれた内容に対して自分の考えを示したり、話の内容や書き手の意見などをとらえて賛否を表現したりできるよう、領域を統合した活動を意図的に授業の中に位置づけ、情報を整理しながら自分の思いや考えを話したり、書いたりする言語活動を継続して行うことが大切である。 (問題8(2))

8 英語の授業で、ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで、以下の問いに答えなさい。

Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?



(2) ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。

※ 下の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

(●問題8(2) 正答率21.9%
無回答率27.9%)

2 児童生徒質問紙調査の結果から 自尊感情等 全国比:令和5年度本市と全国を比較したもの R4本市比:R4の本市の値

肯定的な回答:「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」を足したもの 全国比:令和5年度本市と全国を比較したもの R4本市比:R4の本市の値と比較したもの 〇は今年度新しく掲載した質問

と比較したもの 〇は今年度新しく掲載した質問

質問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	R4本市比	考察
1 自分には、よいところがあると思う	小	82.2%	-1.3	+2.0	2 「将来の夢や目標をもっている」児童の割合は昨年度より上昇しているが、生徒の割合は低下している。児童生徒が将来への見通しをもち、自己実現を図ることができるよう、「社会に学ぶ『十四歳の挑戦』」等を活用し、自らの進路について考える機会を設けるなど、系統的な指導計画を作成し、キャリア教育等を充実させることが大切である。
	中	82.8%	+2.8	+2.5	
2 将来の夢や目標をもっている	小	80.8%	-0.7	+3.0	3 「人の役に立つ人間になりたい」児童生徒の割合は昨年度とほぼ同じである。時間をかけてがんばった事柄について、認め合う機会をつくる。また、一人一人の得意分野を把握し、よさを生かす場面を設定するなど、他者や集団との関わりの中で、自分に自信をもてる場を意図的に設けていくことが必要である。
	中	62.4%	-3.9	-1.1	
3 人の役に立つ人間になりたい	小	96.2%	+0.3	+0.6	
	中	95.3%	+0.7	+0.0	

規範意識

質問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	R4本市比	考察
4 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	小	96.9%	+0.0	+0.3	4 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」児童生徒の割合は昨年度とほぼ同じである。共感的な人間関係を育む教育活動を展開できるよう、学級活動や道徳科の学習等を充実させる。また、自他を尊重する態度をはぐくむとともに、相手の立場に立って物事をとらえる機会を創出することで、互いを認め合う気持ちを継続して高めていく。さらに、児童会・生徒会が中心となり、児童生徒が主体的にいじめ防止のための取り組みを行うことが大切である。
	中	96.9%	+1.4	+0.4	

授業での活動

質問	校種	肯定的な回答の割合	全国比	R4本市比	考察
5 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる	小	82.0%	+0.2	+1.7	5,7 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしている」児童の割合は全国とほぼ同じであるが、生徒の割合は低い。「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う」児童の割合は全国よりやや高く、生徒の割合は高い。本市が重点事項としている「主体性のある子どもの育成」を目指し、問題解決的な学習(PBL)の充実を図る必要がある。また、一人1台端末を活用するなどして、教師が児童生徒一人一人の学習の進捗や定着の状況を把握し、児童生徒が主体となって学習に取り組むことができるよう、個々の状況に応じて適切な支援を行うことが大切である。
	中	73.2%	-6.5	+0.0	
6 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う	小	78.9%	+0.1	+1.7	
	中	78.5%	-0.7	+1.4	
7 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う	小	78.4%	+3.6	+0.3	
	中	78.6%	+6.0	+1.0	

家庭学習

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 4 本市比	考 察
8	学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1時間以上勉強をしている	小	55.7%	-1.4	+0.4	8 「学校の授業時間以外に、普段1時間以上勉強している」児童の割合は昨年度とほぼ同じであるが、生徒の割合は低下している。中学生の家庭学習の習慣が定着していないことが示されている。授業における振り返りの時間を確実に確保し、 <u>自分の学習状況を自覚させることで、家庭学習の必要感が得られるような取り組みが必要である。</u> 10 「平日に30分以上スマートフォンやコンピュータなどのICTを勉強のために使っている」児童の割合は昨年度より上昇したが、生徒の割合は昨年度より大きく低下している。今後は、 <u>小学校で身につけた一人1台端末の活用習慣が途切れることなく中学校へ引き継がれるよう、家庭でのルール作りと家庭学習について小中接続を意識し、小中学校間で連携を図ることが大切である。</u> 11, 12 「家で自分で計画を立てて勉強している」児童の割合は全国より高いが、生徒の割合は低い。「学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっている」児童生徒の割合は全国より低い。児童生徒が主体的に学習が進められるよう、 <u>学校の授業を中心として、児童生徒が状況に応じて自身に合った学び方を身につける必要がある。</u>
		中	60.9%	-4.9	-5.4	
9	普段（月～金曜日）、家や図書館で30分以上読書をしている	小	39.8%	+2.5	+0.3	
		中	28.3%	-0.1	+0.3	
10	普段（月～金曜日）、30分以上スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を勉強のために使っている	小	55.2%	+14.1	+4.3	
		中	30.7%	-0.5	-10.9	
◎ 11	家で自分で計画を立てて勉強している	小	73.8%	+3.1	-	
		中	53.8%	-1.2	-	
◎ 12	学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっている	小	38.2%	-7.2	-	
		中	52.5%	-7.5	-	

家庭での生活

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 4 本市比	考 察
13	朝食を毎日食べている	小	94.8%	+0.9	-0.3	13, 14 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」児童生徒の割合は昨年度と比べて低下傾向にある。規則正しい睡眠と毎日朝食をとる児童生徒ほど、学力調査の平均正答率が高い傾向にあることから、 <u>学校と家庭が連携し、児童生徒の基本的な生活習慣を育成することが大切である。</u>
		中	93.4%	+2.2	+0.5	
14	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	小	78.5%	-2.5	-1.7	
		中	80.0%	+2.0	-1.2	

地域や社会に対する興味・関心

質 問		校種	肯定的な 回答の割合	全国比	R 4 本市比	考 察
15	今住んでいる地域の行事に参加している	小	71.0%	+13.2	+0.4	15, 16 「地域の行事に参加している」「地域や社会をよくするために何かしたいと思っている」児童生徒の割合は全国より高い。 <u>コミュニティ・スクールにおいて児童生徒が意見を述べる機会を創出し、児童生徒と委員、教職員とが互いに意見を交わすことで、児童生徒の主体性がはぐまるとともに、地域の大人が学校のために真剣に考える姿を目にしたたり、地域の大人の考えにふれたりすることで、自己の在り方や生き方を考える機会とする。児童生徒が地域の中で育ち、地域のために行動しようとする姿勢を育てていく取り組みが必要である。</u>
		中	45.7%	+7.7	-5.4	
◎ 16	地域や社会をよくするために何かしたいと思っている	小	81.8%	+5.0	-	
		中	66.5%	+2.6	-	

3 学校質問紙調査の結果から

肯定的な回答：「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等を足したもの 全国比：令和5年度本市と全国を比較したもの

R4比：本市令和5年度と令和4年度を比較したもの（令和4年度に調査項目に無かった質問はH30年度と比較したもの） ◎は今年度新しく掲載した質問

児童・生徒指導等

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R4比	考察
1	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした	小	63.0%	-23.5	-4.7	1, 3 「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導」について、肯定的な回答の割合は全国と比べ小学校はかなり低く、中学校はほぼ同じである。 <u>日頃から児童生徒を観察したり、積極的にコミュニケーションを図ったりしながら個々のよさを見つけ、意図的な声かけによってよさを自覚させることが大切である。また、働く人を講師に招いて話を聞くなどの活動を通してキャリア教育を継続する必要がある。</u>
		中	100%	+1.4	0	
2	授業中の私語が少なく、落ち着いている	小	89.3%	+1.7	+10.8	
		中	100%	+4.9	+3.9	
3	児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行った	小	100%	+1.1	+1.5	
		中	96.1%	-2.2	-0.1	

学校運営に関する状況

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R4比	考察
4	児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している	小	92.3%	-3.9	-1.5	4, 5 「PDCAサイクルの確立」について、肯定的な回答の割合は、全国と比べ小学校はやや低く、中学校はやや高い。特に中学校においてPDCAサイクルが定着してきている様子が見える。ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）について、小学校、中学校ともに、ほぼ同じ。 <u>欠席連絡やアンケートのデジタル化を推進するなど、有効事例を参考にしながら身近なことからICTを活用することが重要である。</u>
		中	100%	+4.8	+3.8	
5 ◎	ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）に取り組んでいる。	小	100%	+1.7	+7.8	
		◎中	100%	+2.3	-	

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R4比	考察
6	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている	小	86.2%	-2.7	+6.2	6, 7, 8 いずれの質問についても、小、中学校ともに、昨年度よりも改善が見られ、主体性をはぐくむための授業改善が推進されていることが分かる。小、中学校ともに、引き続き児童生徒の実態を正確にとらえ、学びに広がりや生まれる課題を設定し、じっくりと課題と向き合う時間を保障しながら、児童生徒一人一人に応じた支援を心がけることが重要である。
		中	88.5%	+0.5	+11.6	
7	学級活動の授業を通して今努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている	小	89.3%	-3.8	+1.6	
		中	92.3%	+0.3	+7.7	
8	特別の教科 道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている	小	90.8%	-5.7	+1.5	
		中	96.2%	-0.7	+3.9	

特別支援教育

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R4比	考察
9	特別支援教育について理解し、授業の中で、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った	小	86.2%	-8.7	+7.7	11 「特別支援教育」について、肯定的な回答の割合は、昨年度より改善が見られる。 <u>引き続き、本人の特性や教育的ニーズをとらえ、一人一人に応じた適切な支援や合理的配慮を行うために、特別支援コーディネーターを中心とした校内支援体制を構築することが重要である。</u>
		中	100%	+5.9	+15.3	

小学校教育と中学校教育の連携

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R4比	考察
10	近隣等の小（中）学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取り組みを行った	小	37.0%	-23.6	+9.3	10, 11 「小・中学校の連携」について、肯定的な回答の割合は、全国と比べ小学校、中学校ともにやや改善は見られるが、低い。 <u>校区の小学校と中学校で円滑な接続を図るために、お互いの学習を見合ったり、学習や生活に関する取り組みを共同で行ったりするなど、課題と目標を共有し、共に取り組む機会を設けることが必要である。</u>
		中	57.7%	-9.1	-3.9	
11	令和4年度全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小中学校と成果や課題を共有した	小	18.5%	-35.1	+1.6	
		中	23.1%	-31.6	+11.6	

ICTの活用

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R4比	考察
12	一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業で週3日以上活用した	小	93.9%	+3.3	+1.6	13, 14 小・中学校ともにICT機器を「どの程度活用した」ことについて、肯定的な回答の割合は、全国と比べ、小学校はやや高く、中学校はほぼ同じである。「自分の考えをまとめ、発表する場面でのどの程度活用した」ことについて、小学校は低く、中学校はかなり低い。 <u>どの場面（調べる、課題を解決する、共有する、まとめて発表・表現する場面等）でICT機器を使うのが効果的なのかを学校全体で共有し、児童生徒の情報活用能力を育成することが重要である。</u>
		中	84.6%	-2.1	-3.9	
13	自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業で週3日以上活用した	小	38.4%	-7.4	+7.7	
		中	26.9%	-17.3	-15.4	

調査結果の活用

質問		校種	肯定的な回答の割合	全国比	R4比	考察
14	令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した	小	93.8%	-2.2	+3	14, 15 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果を「教育活動を改善するためにどの程度活用した」ことについて、肯定的な回答の割合は、改善が見られるが、全国と比べ、小学校はほぼ同じで、中学校はやや低い。 <u>全国学力・学習状況調査から見た児童生徒の実態をとらえ、学校全体で共有し、授業改善に生かすことが重要である。</u>
		中	88.5%	-4.5	+10	

V 今後の取り組み

1 調査結果の取り扱い

市教育委員会では、平成19年度から令和5年度までに実施された13回の「悉皆調査」と2回の「抽出調査」において、現状に即した教育に努めるため調査結果を公表してきた。

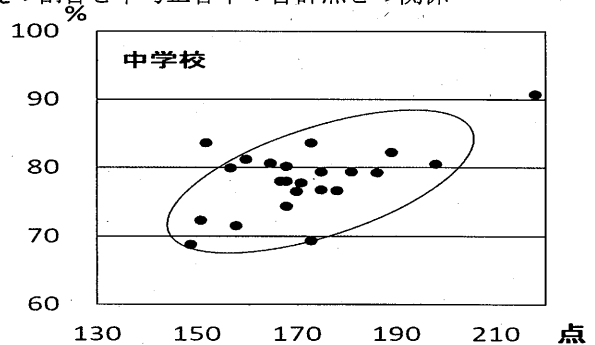
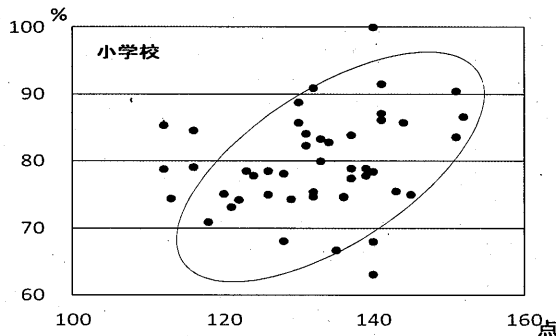
今年度の調査結果を分析することにより富山市における課題を明らかにし、今後の授業改善に向けた指導のポイントについて提案する。また、各学校では、本調査の結果を詳細に分析し、学校全体の学力・学習状況の傾向や自校の課題について、全教職員で共有することが大切である。分析するにあたり、数値のみにとらわれず、児童生徒の個々の学力状況や日ごろの学習の様子と学力調査等の分析結果を結びつけ、多面的、総合的に課題を明らかにして、日常の授業を改善していくものとする。

2 教科に関する調査と児童生徒質問紙調査及び学校質問紙調査の関連

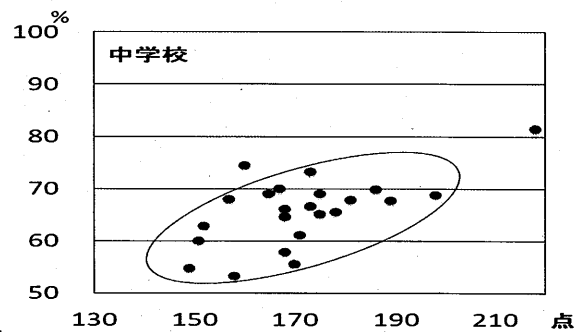
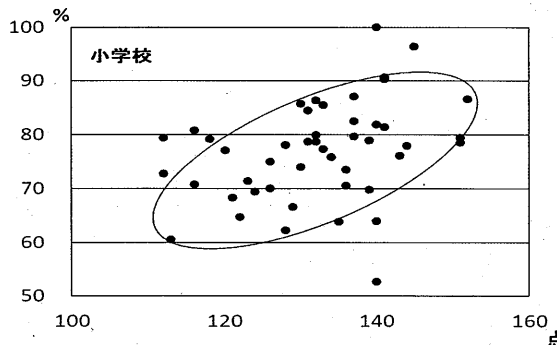
(1) 学校ごとの平均正答率の合計と児童生徒質問紙の回答状況との相関関係

① 「問題解決的な学習」に関すること

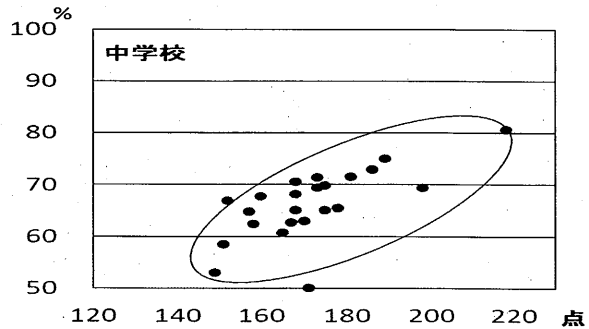
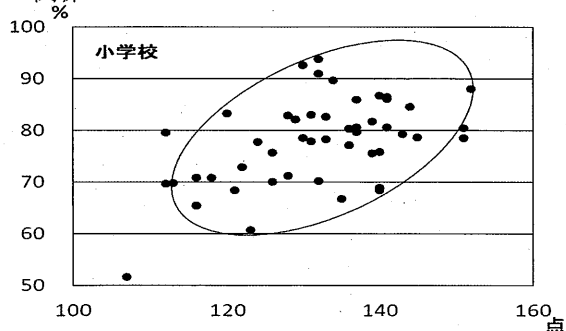
- 児童生徒質問紙 33 (37) 「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



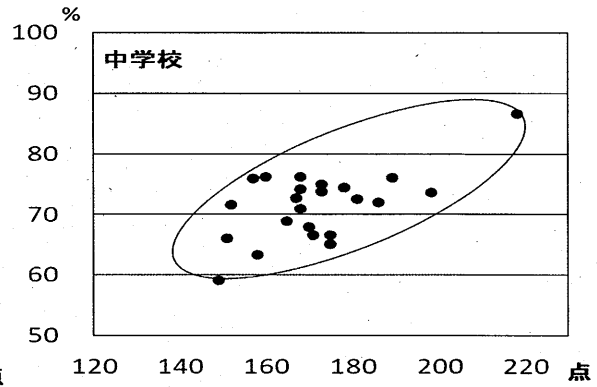
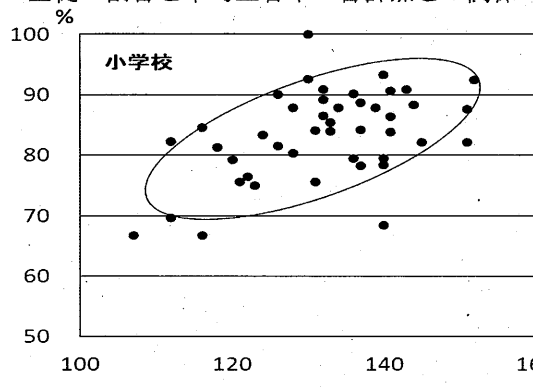
- 児童生徒質問紙 34 (38) 「前年度までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



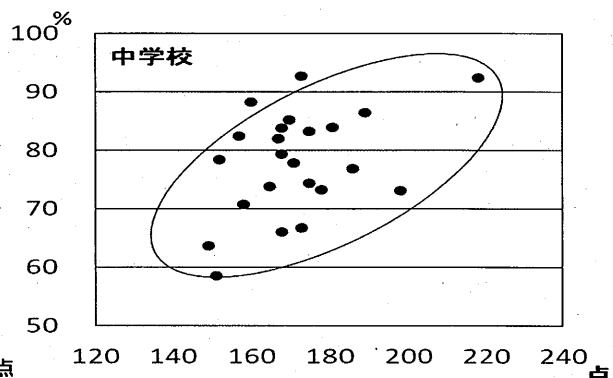
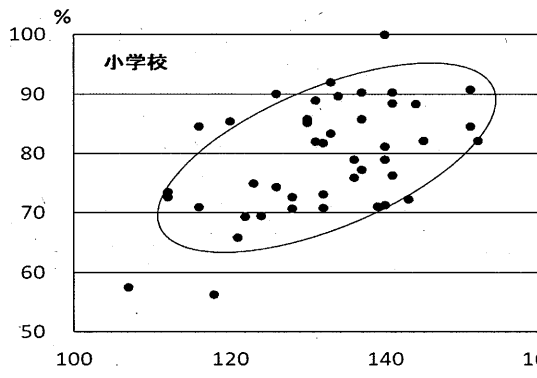
- 児童生徒質問紙 37 (41) 「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



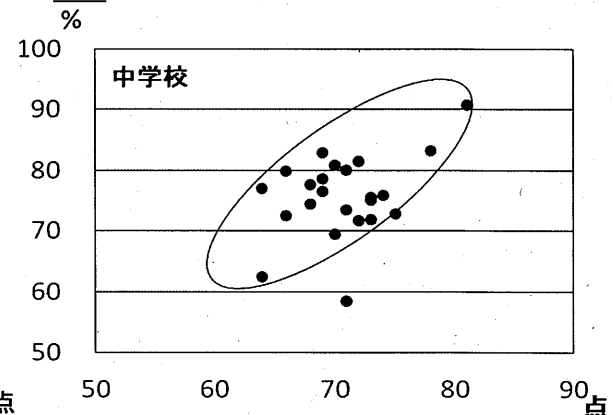
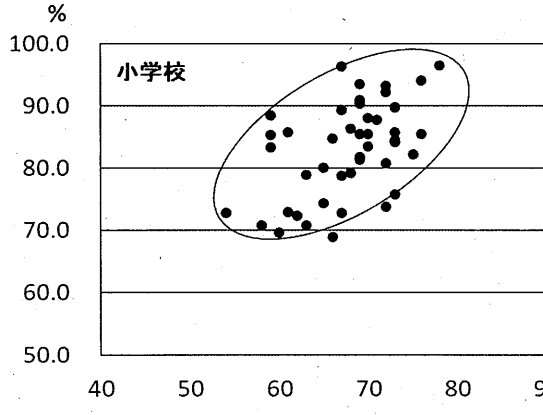
- 児童生徒質問紙 38 (42) 「授業で学んだことをほかの学習で生かしている」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



- 児童生徒質問紙 39 (43) 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係

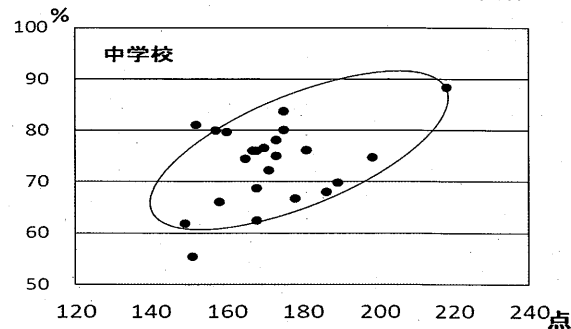
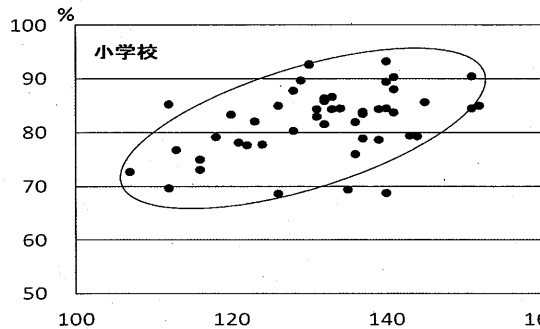


- 児童質問紙 50 (54) 「国語の授業で、文学的文章（物語など）を読むときに、文章表現・描写を基にとらえている」と答えた児童生徒の割合と国語の平均正答率との関係



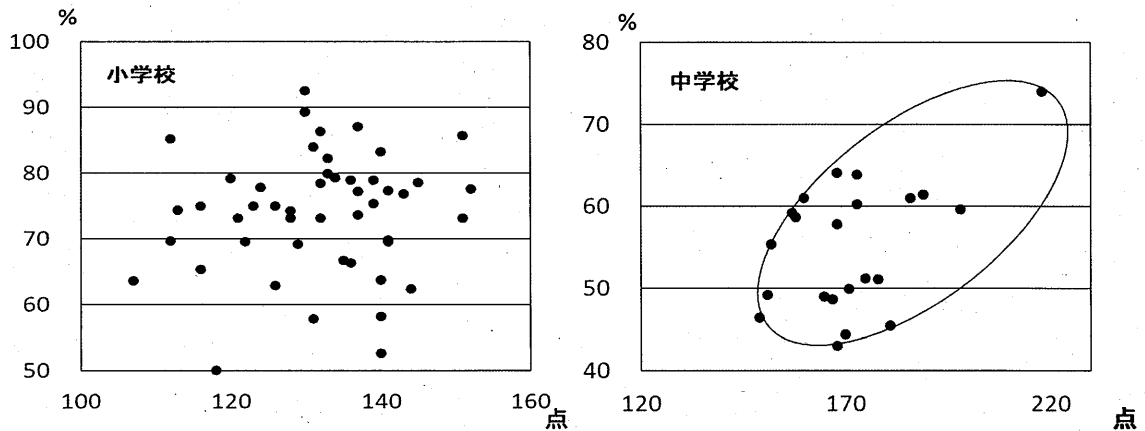
② 「非認知能力」に関すること

- 児童生徒質問紙 36 (40) 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係

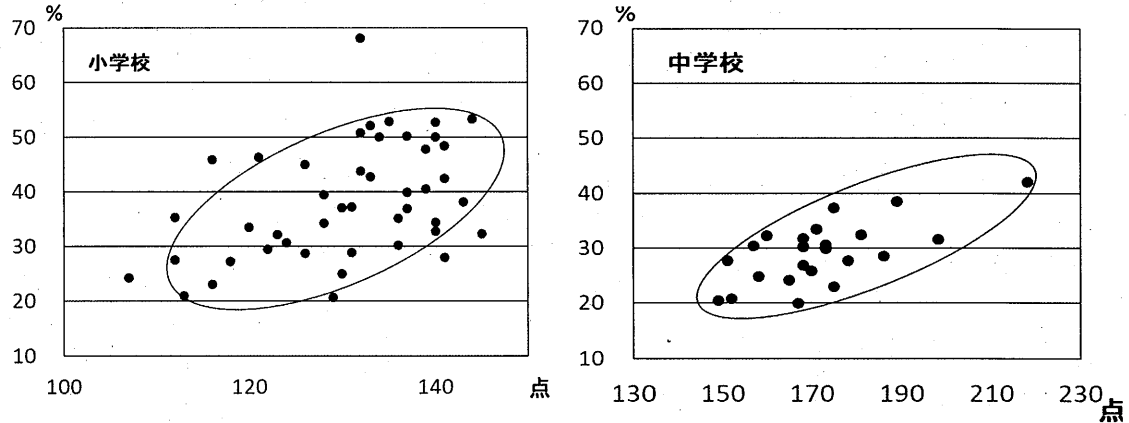


② 「家庭での過ごし方」に関すること

- 児童生徒質問紙 16 (16) 「家で自分で計画を立てて勉強している」と答えた生徒の割合と平均正答率の合計点との関係

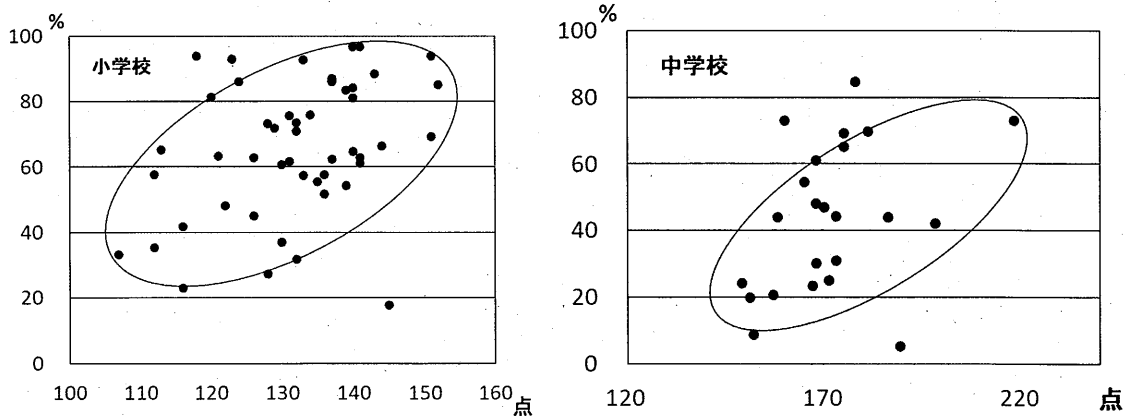


- 児童生徒質問紙 20 (20) 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり30分以上読書をする」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



③ ICTの活用に関すること

- 児童生徒質問紙 29 (33) 「前年度までに受けた授業で、PC、タブレットなどのICT機器を週3日以上使用した」と答えた児童生徒の割合と平均正答率の合計点との関係



<データの取り扱いについて>

※ 児童生徒質問紙の分析は、データの正確性を優先し、児童生徒数が20名以上の学校を対象とした。

※ 相関係数が0.3以上の場合、図に楕円の○を書き入れ、相関の特徴を表している。

※ ()内は、中学校の生徒質問紙の番号を表している。

以上の結果から、次の4点の内容が平均正答率に影響があると推察できた。

- ＜本市における授業改善に向けた指導の重点－令和5年度の全国学力・学習状況調査から－＞
- 1 「問題解決的な学習」の充実 －児童生徒が自ら解決したい問いを決め、解決のために試行錯誤を繰り返し、結果を考察し表現するための手立て－
 - 2 「非認知能力の育成」 －粘り強く取り組む力、仲間と協働する力をはぐくむ－
 - 3 「家庭でのくらし」の充実 －生活においても目的意識をもつ－
 - 4 授業でのICT活用 －個や協働の各場面における端末の活用－

これらの4点については、これまでも各学校において取り組んできたが、今後も引き続き授業改善に向けた工夫を考え、継続して取り組んでいく必要がある。

(2) 学校質問紙の各質問項目における平均正答率からみた2教科合計ポイントの平均以下に、平均正答率と相関関係があった児童生徒質問紙の項目に関連した学校質問紙の項目の一部を挙げた。

質問事項	回答		
	上段：平均正答率からみた2教科合計ポイント平均	下段：回答学校数	回答
(31) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫した	139点 18校	130 61	125 10
(32) 児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した	136 22	130 59	131 8
(33) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた	132 28	133 40	128 21
(34) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした	135 8	132 61	129 20
(35) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた	137 12	133 51	127 26
(53・61) 教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修の機会がある	132 46	131 38	
(54・62) コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられている	134 38	130 44	125 6
(75・83) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図った	133 20	131 57	130 11
(76・84) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた	132 43	132 39	126 7
(77・85) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かした	134 16	132 54	128 7

※回答学校数が5校以下の項目の数字は省く。 0% 20% 40% 60% 80% 100%

3 授業改善に向けた指導の重点

児童生徒質問紙においては、学習活動に関して、

○「自分の考えを深めたり広げたりしながら学んだことを生かそうとする児童生徒」

○「学習に意義を見だし、課題解決に向けて粘り強く取り組む児童生徒」

と平均正答率に正の相関があるという結果がみられた。

いずれの教科においても記述式の問題において正答率が低かったが、全国的に見てその傾向は続いており、本市においても課題である。

また、今回の調査における平均正答率と授業での ICT 機器の活用について、週3日以上使用した児童生徒の割合と平均正答率に正の相関があるという結果がみられたが、その使用頻度は学校によって差が大きい。

以上のことから、以下の4点が本市における授業改善に向けた指導の重点として挙げられる。

- | |
|---|
| <p>＜本市における授業改善に向けた指導の重点—令和5年度の全国学力・学習状況調査から—＞</p> <ol style="list-style-type: none">1 「問題解決的な学習」の充実 —児童生徒が自ら解決したい問いを決め、解決のために試行錯誤を繰り返し、結果を考察し表現するための手立て—2 「非認知能力の育成」 —粘り強く取り組む力、仲間と協働する力をはぐくむ—3 「家庭でのくらし」の充実 —生活においても目的意識をもつ—4 授業でのICT活用 —個や協働の各場面における端末の活用— |
|---|

令和5年度の全国学力・学習状況調査の結果から、本市における授業改善に向けた指導の重点について、指導のポイントを挙げる。

(1) 「問題解決的な学習」の充実—児童生徒が自ら解決したい問いを決め、解決のために試行錯誤を繰り返し、結果を考察し表現するための手立て—

教師がテーマを提示し、児童生徒がそのテーマを基に自ら解決したい問いを決め、解決のための計画を立て、情報収集を行い、必要な実践の後、結果を考察し発表するといった一連の活動に取り組む問題解決的な学習、いわゆるPBL（ProjectまたはProblem Based Learning）の充実を図ることが引き続き重要である。

富山市学校教育指導方針のP.14「学習指導」における「問題解決的な学習の展開」では、次のように示している。

2 問題解決的な学習の展開

- (1) 子どもにとって必要感や切実感のある学習課題が設定できるような教材の提示方法等を工夫する。

実践例 小学校...学期に一単元程度、問題解決的な学習の充実を図る。

中学校...単元や1時間の学習の導入時に課題やその提示の仕方について工夫をする。

問題解決的な学習を授業で行うためには、教科横断的なカリキュラム・マネジメ

ントの実践が不可欠である。今回の質問紙調査において「各教科などで学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動を行った」「授業で学んだことをほかの学習で生かしている」と答えた児童生徒の平均正答率が高かったことから明らかである。これまでに実践されてきた、各教科や総合的な学習の時間、特別活動の連携、教科で取り扱う内容や行事の精選に取り組んでいる成果が表れていると考えられる。今後も、教師が各教科等の内容や系統を理解し、資質・能力の育成のために必要なことを見極めることが大切である。

そして、問題解決的な学習を進める中で、情報を収集する際や情報を整理・分析する際に、児童生徒が自分の考えを構築するための具体的な方法や道筋を、教師が提示し選択できるようにしたり、相談・助言したりすることが有効である。「今、どこまでできているのか」「何か困っていることはないか」「どうしていこうと思っているのか」など、教師が児童生徒の学習状況をとらえてニーズに合わせて個別の声かけを行い、自分の学習の状況をメタ認知し自覚的に安心して学習できる環境をつくることも大切である。

以上のように、児童生徒の実態をとらえて計画を立て、適切な支援を継続して行うことが、児童生徒の力を高めていくことを改めて確認したい。

① 児童生徒が自ら解決したい問いを決めるための手立て

(ア)「疑問を感じる種をまく」

- ・様々な場面において「どうして?」「なぜ?」と疑問をもつことができるよう、教師が日ごろから「はてな」を投げかけていく。

(イ)「解決したくなるテーマで学習を展開する」

- ・児童生徒の実態に合わせ、広がりをもてるテーマを選定する。
- ・切実感がある内容を設定する。

② 児童生徒が解決のために試行錯誤を繰り返すための手立て

(ア)「失敗を受け入れられる集団づくり」

児童生徒が失敗を恐れずに挑戦するには、自己肯定感から自己有用感につながる背景が重要である。指導方針 P. 13 学年・学級経営「主体性のある子どもを育成する学年・学級経営」における重点を確認したい。

(イ)「『自分が動けば何かが変わる』経験をする」

児童生徒を「持続可能な社会の創り手」へと育て上げるために、新しいものを創り上げたり今まであったものごとを変化させたりする経験が必要である。知識としてだけでなく、参画してみても失敗も成功もあるような、実感を伴う体験が望ましい。指導方針 P. 26 から P. 51 の例を参考にしてもらいたい。

③ 児童生徒が結果を考察し表現するための手立て

指導方針 P. 5 のように、問題解決的な学習では「まとめ・表現する」場面を設け、次の活動へつなげていくことが重要である。これは、今回の質問紙で「各

教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った」と答えた児童生徒の平均正答率に正の相関がみられたことから明らかである。

それぞれの児童生徒が「何が分かったのか」をまとめ、「何を伝えたいか」を考える場を保障し、その内容や技能に合ったツール（ノート、Chromebook、ホワイトボード等）や方法（文章、図絵、プレゼンテーション等）を児童生徒自身が選ぶことができるような工夫も有効である。

教師から一方的に与えるのではなく、児童生徒が自己決定して表現できるようにしていきたい。

(2) 「非認知能力」の育成 —粘り強く取り組む力、仲間と協働する力を育む—

非認知能力は、幼児期後半から、「自分で決定したことを実行する」「成功体験や失敗体験を積み重ねる」「仲間と協働的に活動する」などを通して獲得されていくと言われる。教師は、授業（単元）を構想する際、「この授業（単元）において、児童生徒はこのようなことを楽しんで取り組んでいこう」「このようなことを児童生徒が自分で決定できるようにすれば、より主体的に進めていくのではないか」「このようなところで壁や困難さを感じるのではないか。そのとき、どのようにして乗り越えていこう」「仲間と共に学ぶ必然性はどこに生まれるだろう」など、児童生徒の具体的な姿を想定し、支援や手立てを工夫しておくことが大切である。教師がこのように授業を構想することによって、児童生徒の発想や可能性をつぶさを感じられるようになり、教師の予想を超える児童生徒の発言や姿にも共感したり、共に考えたりできるようになる。

また、児童生徒は、体験したことを整理、分析し、これまで経験したこと、学んだことを振り返り、比較していく中で学びを深めていく。その過程では、対話することを大切にしたい。体験をとおして、「どのようなことを感じたのか」、「どのようなことを考えるようになったのか」などを、児童生徒同士、児童生徒と教師等で対話をしていく中で、児童生徒が自分なりの言葉で表現し、その言葉を仲間や教師がよく聞き、受け止めたり、認めたりする。そのようななかかわりの中で、非認知能力が育まれていくことが期待できると考える。


(3) 「家庭での暮らし」の充実 —学校の授業と家庭学習のリンク—

学校の授業と家庭学習に連続性をもたせることで、更なる学力の向上が期待できると考えられる。その際、学校と家庭が連携し、児童生徒の興味関心をとらえて、課題意識をもたせる働きかけを行うことが大切である。

平均正答率が高い学校に共通していることとして、児童生徒質問紙において、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげていますか」「授業で学んだことを、ほかの授業で生かしていますか」という質問に対する肯定的な回答が見られたということである。このことから、授業における、「振り返り」の時間を確保することが有効であると考えられる。指導方針 電子データ1-4には、学習のまとめと振り返りについてポイントを挙げてある。学習内

容を確認する「まとめ」とは異なり、「振り返り」は自分自身の学びをこれまでの経験や学習と関連付けながら意味付けていくものである。「振り返り」によって新たな疑問や次への見通しをもつことができる。その中の視点として「分かったこと」「新たな疑問」「さらに考えたいこと」「家庭学習で考えたいこと」などを示しながら、工夫をしていくことで、家庭学習への連続性につながるものと考えられる。

まとめとは、今日の1時間の学習内容の確認です。板書で、本時の子どもの発言を生かしながら整理することが大事です！



振り返りでは、本時の学習で理解できたこと、まだ理解できていないことを整理することが重要です。「理解できていないことは」、家庭学習につなぐことや次の課題にするなど、学校の連続性を意識した授業展開となるようにしましょう。また、そのことをとおして、自分が向上したことや学びのよさを子ども自身が客観視できるようにしましょう。

まとめと振り返りを区別することが大切です。

	まとめ (学習内容を確認する)	振り返り (学びを客観視する)
<p>学習したことをまとめる</p> <p>振り返りをノートに書く</p> <p>家庭学習や次時の見通しをもつ</p>	<p>教師の言葉のかけ方</p> <p>子どものノート</p>	<p>友達の記事を聞いて、「分かったこと」や「新たな疑問」「さらに考えたいこと」を、ノートに書きましょう。</p> <p>し字型図形をたてに分けたり、横に分けたりして長方形の面積の公式を使えば、かんたんにし字型図形の面積が求められることが分かりました。</p> <p>どの考えも前に習った長方形の面積の公式を使っていました。前に学習したことを生かして考えると解くことができました。違う図形の面積もかおりさんの考えで求められるのかを知りたいのでやってみたいと思いました。</p>

* 『授業のイロハ』市教委 参照 全校公開フォルダ内書庫及び市教7日P教材アーカイブス掲載

また、学校の授業時間以外に、平日30分以上の読書に取り組んでいる児童生徒においても平均正答率が高くなっている。短時間であっても日常的に読書に取り組むことが、落ち着いて学習に向かう態度や学力につながっているものと考えられる。

以上のようなことを意識することにより、児童生徒自身が学ぶことの意義を味わうことができ、結果として学力の向上につながっていくと考えられる。各学校の実態に応じ、家庭学習の充実に向けての方策を考えていくことが必要である。

(4) 授業でのICT活用 一個や協働の各場面における端末の活用一

富山市学校教育指導方針のP.58「富山市におけるICT活用計画」において、令和5年度は個別最適・協働的な学びの充実を図るために、効果的な場面で端末を活用することを目標としている。学校質問紙において、「コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられている」と答えた学校の児童生徒の平均正答率が高かったことから、研修会はもちろん、同僚性を発揮したOJTにより教師同士でサポートをし、教師の技量を高めていくことが、児童生徒の学力向上につながっていくと考えられる。

また、令和6年度の目標は「文房具の一つとして端末を活用」することである。先に述べた問題解決的な学習を推進するにも、児童生徒が自ら判断し、必要に応じて端末を活用していくことが不可欠である。

活用能力は使用頻度によって左右される。小学校間の差、小学校・中学校間の差が生じないように、富山市全体で取り組む必要がある。

授業改善に向けた指導の重点を述べてきたが、平均正答率が高い学校に共通しているのは、研修会等で学校の課題を的確にとらえて解決策を教職員が共通理解し、継続して取り組んでいることである。このような学校の雰囲気づくりが児童生徒の学力向上につながると考えられる。

〈資料〉

- 1 全国学力・学習状況調査
富山市と全国、県との平均正答率の比較
- 2 小学校6年生 設問別結果一覧
- 3 中学校3年生 設問別結果一覧
- 4 児童生徒質問紙調査
- 5 学校質問紙調査

全国学力・学習状況調査 富山市と全国、県との平均正答率の比較・推移 (H19~R5)

- ・H19、20、21、25、26、27、28、29、30、31、R3、R4、R5：対象学年全員参加方式で実施。
- ・H22、24：抽出方式で実施。(抽出方式のため、全国及び県の値は中央値で示す。)
- ・H23、R2：未実施。

※ 平成28年度より、整数値で公表(平成29年度からは、文部科学省から届く市・県の調査結果が整数値)

【小学校6年生】

		国語 A										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	83.9	68.1	72.1	85.3	83.6	62.7	74.2	72.1	75	79	75
	市一全国	2.2	2.7	2.2	1.8	2.0	0.0	1.3	2.1	2	4	4
	市一県	0.0	-0.7	-0.3	0.2	0.1	-1.1	0.1	-0.8	0	1	1
	富山県	83.9	68.8	72.4	85.1	83.5	63.8	74.1	72.9	75	78	74
	県一全国	2.2	3.4	2.5	1.6	1.9	1.1	1.2	2.9	2	3	3
	全国	81.7	65.4	69.9	83.5	81.6	62.7	72.9	70.0	73	75	71

		国語 B										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	66.0	54.6	51.3	79.3	61.3	50.9	60.2	70.2	62	62	60
	市一全国	4.0	4.1	0.8	1.5	5.7	1.5	4.7	4.8	4	4	5
	市一県	0.0	0.3	-0.4	0.8	0.9	0.2	0.7	0.1	1	2	2
	富山県	66.0	54.3	51.7	78.5	60.4	50.7	59.5	70.1	61	60	58
	県一全国	4.0	3.8	1.2	0.7	4.8	1.3	4.0	4.7	3	2	3
	全国	62.0	50.5	50.5	77.8	55.6	49.4	55.5	65.4	58	58	55

		国語			
		H31	R3	R4	R5
平均正答率	富山市	70	66	67	69
	市一全国	6	1	1	2
	市一県	2	-1	0	0
	富山県	68	67	67	69
	県一全国	4	2	1	2
	全国	64	65	66	67

		算数 A										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	86.3	76.1	80.4	77.0	77.0	79.7	81.7	79.0	81	84	68
	市一全国	4.2	3.9	1.7	2.8	3.7	2.5	3.6	3.8	3	5	4
	市一県	0.5	0.1	-0.1	0.9	0.5	0.0	0.7	0.5	0	2	2
	富山県	85.8	76.0	80.5	76.1	76.5	79.7	81.0	78.5	81	82	66
	県一全国	3.7	3.8	1.8	1.9	3.2	2.5	2.9	3.3	3	3	2
	全国	82.1	72.2	78.7	74.2	73.3	77.2	78.1	75.2	78	79	64

		算数 B										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	67.1	55.7	56.6	51.4	62.0	60.8	62.8	47.7	53	49	57
	市一全国	3.5	4.1	1.8	2.1	3.1	2.4	4.6	2.7	6	3	5
	市一県	0.7	0.6	-0.2	0.9	0.7	0.4	0.8	0.2	2	2	2
	富山県	66.4	55.1	56.8	50.5	61.3	60.4	62.0	47.5	51	47	55
	県一全国	2.8	3.5	2.0	1.2	2.4	2.0	3.8	2.5	4	1	3
	全国	63.6	51.6	54.8	49.3	58.9	58.4	58.2	45.0	47	46	52

		算数			
		H31	R3	R4	R5
平均正答率	富山市	70	73	66	65
	市一全国	3	3	3	2
	市一県	1	0	0	0
	富山県	69	73	66	65
	県一全国	2	3	3	2
	全国	67	70	63	63

【中学校3年生】

		国語 A										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	84.6	77.7	82.1	79.4	78.1	79.2	82.3	79.1	78	80	78
	市一全国	3.0	4.1	5.1	4.3	3.0	2.8	2.9	3.3	2	3	2
	市一県	-1.1	-0.3	0.3	0.9	0.0	0.3	0.0	1.0	0	0	0
	富山県	85.7	78.0	81.8	78.5	78.1	78.9	82.3	78.1	78	80	78
	県一全国	4.1	4.4	4.8	3.4	3.0	2.5	2.9	2.3	2	3	2
	全国	81.6	73.6	77.0	75.1	75.1	76.4	79.4	75.8	76	77	76

		国語 B										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	76.0	66.8	80.5	70.6	66.7	71.1	55.6	69.5	71	76	-63
	市一全国	4.0	5.9	6.0	5.3	3.4	3.7	4.6	3.7	4	4	2
	市一県	-1.0	-0.3	0.4	1.0	-0.3	0.7	0.5	1.3	0	1	0
	富山県	77.0	67.1	80.1	69.6	67.0	70.4	55.1	68.2	71	75	63
	県一全国	5.0	6.2	5.6	4.3	3.7	3.0	4.1	2.4	4	3	2
	全国	72.0	60.9	74.5	65.3	63.3	67.4	51.0	65.8	67	72	61

		国語			
		H31	R3	R4	R5
平均正答率	富山市	76	66	70	71
	市一全国	3	1	1	1
	市一県	0	1	0	0
	富山県	76	65	70	71
	県一全国	3	0	1	1
	全国	73	65	69	70

		数学 A										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	75.6	68.2	68.3	70.3	66.6	66.0	71.6	68.2	65	68	71
	市一全国	3.7	5.1	5.6	5.7	4.5	2.3	4.2	3.8	3	3	5
	市一県	-1.6	-1.7	-0.1	1.6	0.1	0.2	0.5	1.1	0	0	1
	富山県	77.2	69.9	68.4	68.7	66.5	65.8	71.1	67.1	65	68	70
	県一全国	5.3	6.8	5.7	4.1	4.4	2.1	3.7	2.7	3	3	4
	全国	71.9	63.1	62.7	64.6	62.1	63.7	67.4	64.4	62	65	66

		数学 B										
		H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
平均正答率	富山市	64.7	53.6	64.1	51.6	55.4	44.3	63.6	46.3	49	51	51
	市一全国	4.1	4.4	7.2	8.3	6.1	2.8	3.8	4.7	5	3	4
	市一県	-1.2	-1.6	0.5	2.1	0.8	0.4	0.0	1.8	0	1	0
	富山県	65.9	55.2	63.6	49.5	54.6	43.9	63.6	44.5	49	50	51
	県一全国	5.3	6.0	6.7	6.2	5.3	2.4	3.8	2.9	5	2	4
	全国	60.6	49.2	56.9	43.3	49.3	41.5	59.8	41.6	44	48	47

		数学			
		H31	R3	R4	R5
平均正答率	富山市	65	59	55	54
	市一全国	5	2	4	3
	市一県	0	0	0	0
	富山県	65	59	55	54
	県一全国	5	2	4	3
	全国	60	57	51	51

【小学校6年生】

		理科			
		H24	H27	H30	R4
平均正答率	富山市	66.2	67.1	65	69
	市一全国	5.3	6.3	5	6
	市一県	0.6	-0.4	1	1
	富山県	65.6	67.5	64	68
	県一全国	4.7	6.7	4	5
	全国	60.9	60.8	60	63

【中学校3年生】

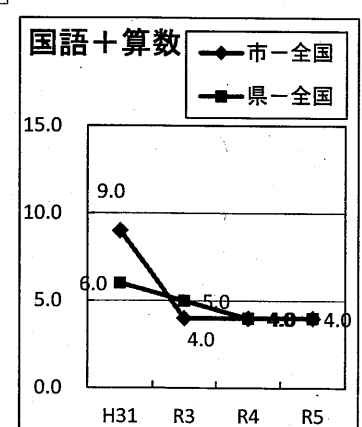
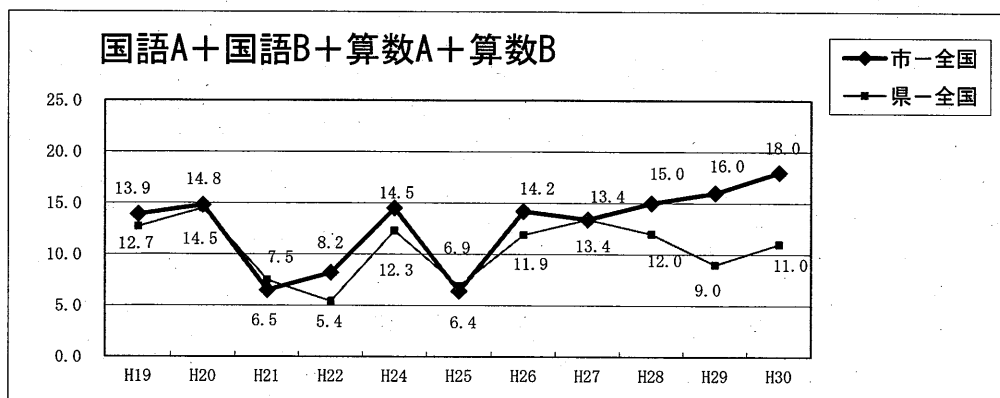
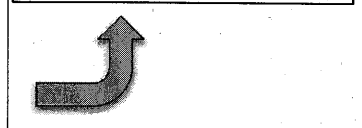
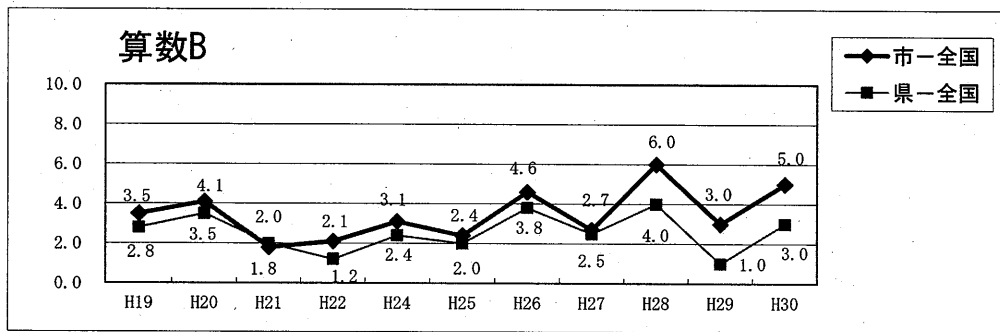
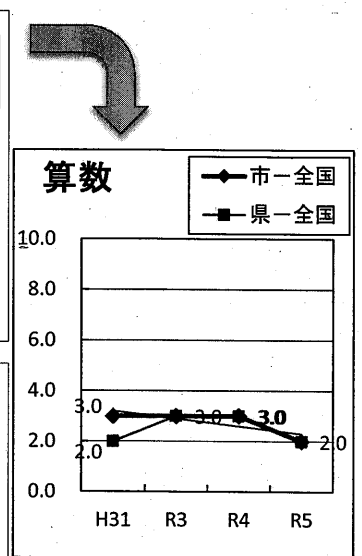
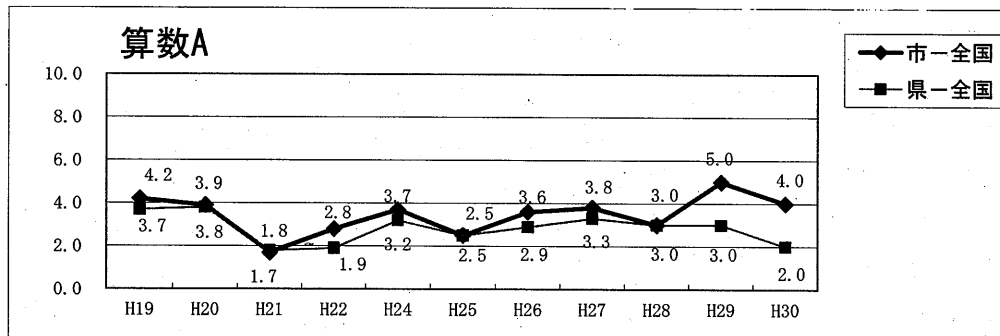
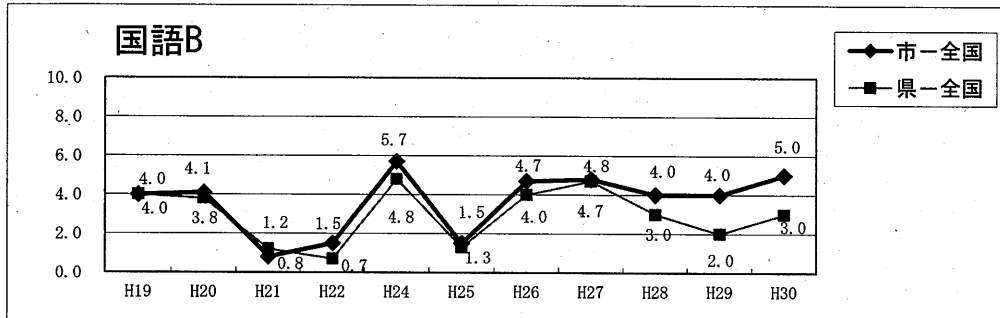
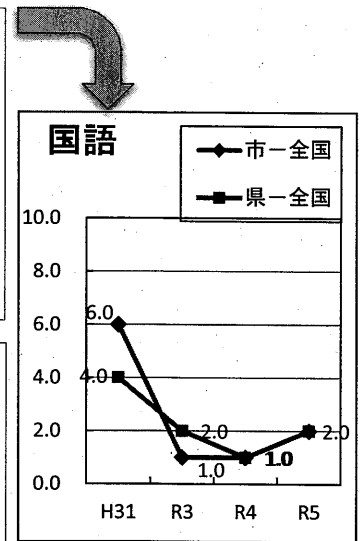
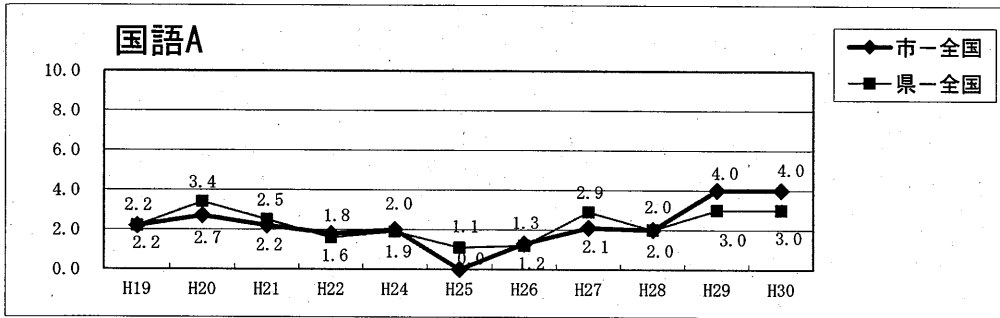
		理科			
		H24	H27	H30	R4
平均正答率	富山市	58.0	60.8	70	52
	市一全国	7.0	7.8	4	3
	市一県	1.2	1.6	0	0
	富山県	56.8	59.2	70	52
	県一全国	5.8	6.2	4	3
	全国	51.0	53.0	66	49

【中学校3年生】

		英語	
		H31	R5
平均正答率	富山市	58	48
	市一全国	2	2
	市一県	1	2
	富山県	57	46
	県一全国	1	0
	全国	56	46

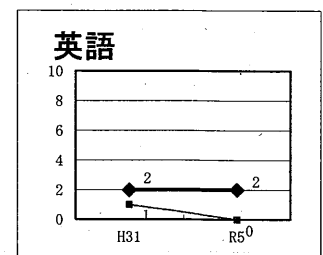
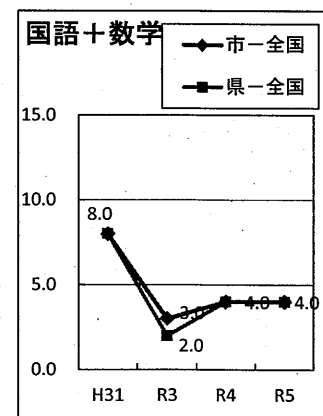
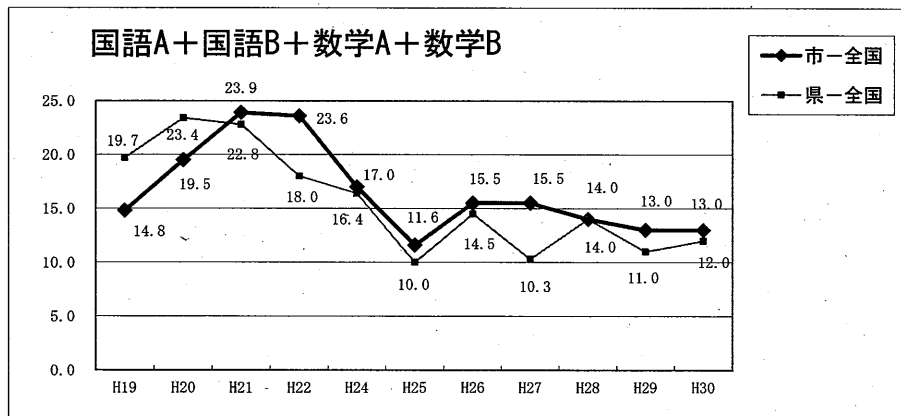
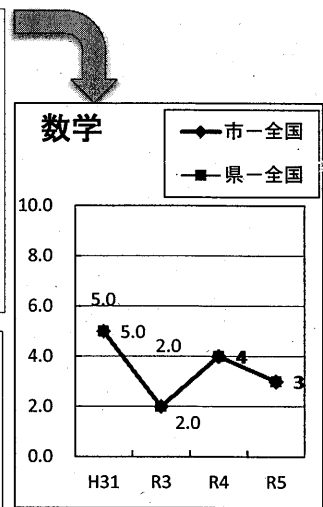
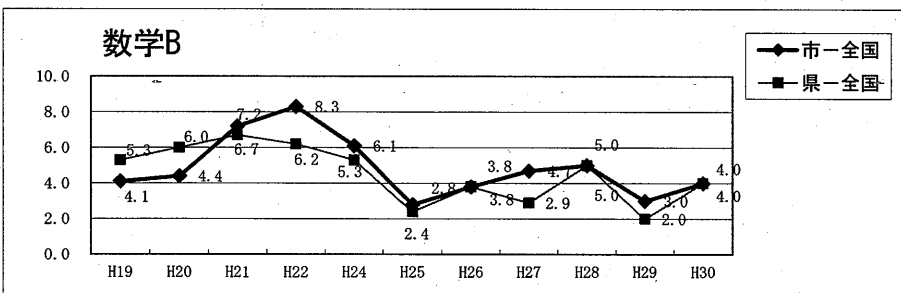
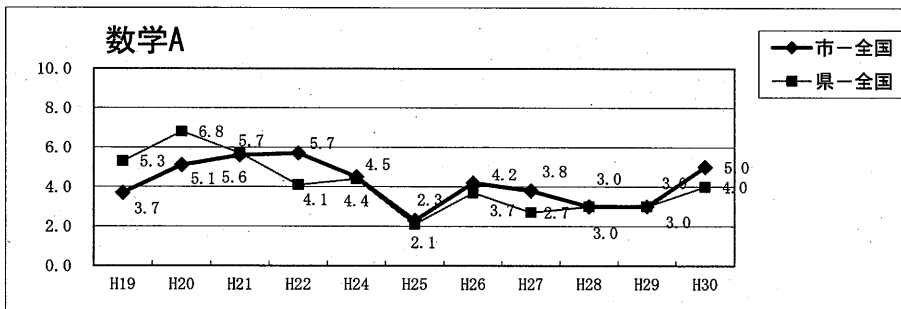
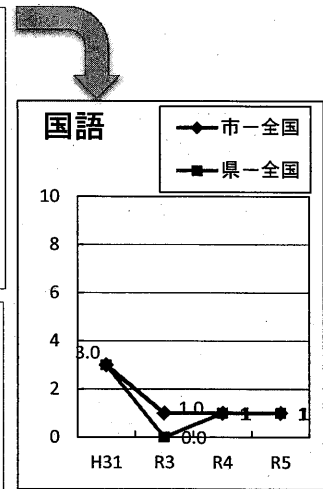
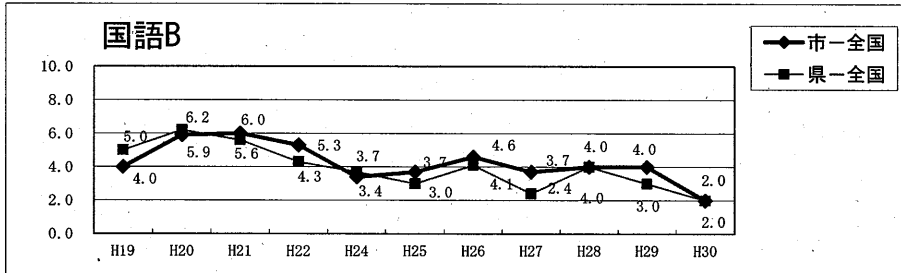
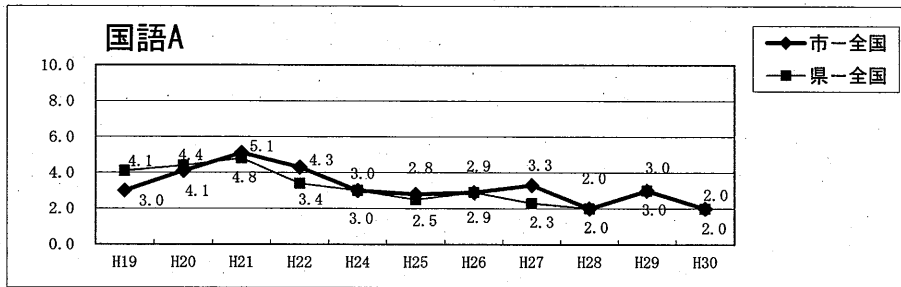
【小学校6年生】

※全国の平均正答率との差 (%)



【中学校3年生】

※全国の平均正答率との差(%)



2 小学校6年生 設問別結果一覧

【小学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式			<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> □ 正答率 ▨ 誤答率 ▩ 無解答率 </div>
			知識及び技能	思考力、判断力、表現力等		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
			(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	(2) 情報の扱い方に關する事項	(3) 我が国の言語文化に關する事項	A 話すこと・聞くこと	B 書くこと	C 読むこと				
1-1	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	5・6 ア									<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>富山市</div> <div style="text-align: center;">65.5</div> <div style="text-align: right;">33.7</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>全国(公立)</div> <div style="text-align: center;">64.7</div> <div style="text-align: right;">33.5</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>0%</div> <div>20%</div> <div>40%</div> <div>60%</div> <div>80%</div> <div>100%</div> </div>
1-2	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる			5・6 エ							<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>富山市</div> <div style="text-align: center;">32.2</div> <div style="text-align: right;">59.2</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>全国(公立)</div> <div style="text-align: center;">26.7</div> <div style="text-align: right;">66.2</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>0%</div> <div>20%</div> <div>40%</div> <div>60%</div> <div>80%</div> <div>100%</div> </div>
1-3 (1) ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 エ									<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>富山市</div> <div style="text-align: center;">61.8</div> <div style="text-align: right;">34.6</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>全国(公立)</div> <div style="text-align: center;">52.8</div> <div style="text-align: right;">42.4</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>0%</div> <div>20%</div> <div>40%</div> <div>60%</div> <div>80%</div> <div>100%</div> </div>
1-3 (1) ウ	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す(まかふ)		5・6 エ									<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>富山市</div> <div style="text-align: center;">71.8</div> <div style="text-align: right;">22.0</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>全国(公立)</div> <div style="text-align: center;">72.6</div> <div style="text-align: right;">20.7</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>0%</div> <div>20%</div> <div>40%</div> <div>60%</div> <div>80%</div> <div>100%</div> </div>
1-3 (2) イ	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したもとして適切なものを選択する(くらべて)	送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6 ウ									<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>富山市</div> <div style="text-align: center;">94.1</div> <div style="text-align: right;">5.5</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>全国(公立)</div> <div style="text-align: center;">93.1</div> <div style="text-align: right;">5.9</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>0%</div> <div>20%</div> <div>40%</div> <div>60%</div> <div>80%</div> <div>100%</div> </div>
1-4	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する	文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる	5・6 カ									<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>富山市</div> <div style="text-align: center;">80.2</div> <div style="text-align: right;">18.4</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>全国(公立)</div> <div style="text-align: center;">79.8</div> <div style="text-align: right;">18.2</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>0%</div> <div>20%</div> <div>40%</div> <div>60%</div> <div>80%</div> <div>100%</div> </div>
2-1	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる				3・4 ウ						<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>富山市</div> <div style="text-align: center;">91.7</div> <div style="text-align: right;">7.6</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>全国(公立)</div> <div style="text-align: center;">90.0</div> <div style="text-align: right;">8.8</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>0%</div> <div>20%</div> <div>40%</div> <div>60%</div> <div>80%</div> <div>100%</div> </div>
2-2	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなど必要な情報を身付けることができるかどうかをみる				5・6 ウ						<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>富山市</div> <div style="text-align: center;">71.8</div> <div style="text-align: right;">27.2</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>全国(公立)</div> <div style="text-align: center;">67.4</div> <div style="text-align: right;">31.2</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>0%</div> <div>20%</div> <div>40%</div> <div>60%</div> <div>80%</div> <div>100%</div> </div>
2-3	相田さんが【資料3】の情報をどのように整理しているかについて説明したもとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	5・6 イ									<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>富山市</div> <div style="text-align: center;">63.5</div> <div style="text-align: right;">35.4</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>全国(公立)</div> <div style="text-align: center;">62.0</div> <div style="text-align: right;">36.4</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>0%</div> <div>20%</div> <div>40%</div> <div>60%</div> <div>80%</div> <div>100%</div> </div>
2-4	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができることをまとめて書く	文章を読んで理解したことを基に、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				5・6 オ						<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>富山市</div> <div style="text-align: center;">58.7</div> <div style="text-align: right;">30.1</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>全国(公立)</div> <div style="text-align: center;">56.2</div> <div style="text-align: right;">35.3</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>0%</div> <div>20%</div> <div>40%</div> <div>60%</div> <div>80%</div> <div>100%</div> </div>
3-1 (1)	【インタビューの様子】の傍線部ア(～ということだと思いますか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと、その中心を捉えることができるかどうかをみる				3・4 エ						<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>富山市</div> <div style="text-align: center;">75.4</div> <div style="text-align: right;">21.2</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>全国(公立)</div> <div style="text-align: center;">73.6</div> <div style="text-align: right;">22.7</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div>0%</div> <div>20%</div> <div>40%</div> <div>60%</div> <div>80%</div> <div>100%</div> </div>

【小学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域等			評価の観点			問題形式			<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> □ 正答率 ▨ 誤答率 ▩ 無解答率 </div>	
			知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式		記述式
			(1) 言葉の意味や使い方に 関する事項	(2) 情報の扱い方に 関する事項	(3) 我が国の言語文化に 関する事項	A 話すこと・聞くこと							
3-1 (2)	【インタビューの様子】の傍線部イ(～というのは、どのような姿ですか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分の中心を捉えることができるかどうかをみる											<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>富山市</p> <p>75.1</p> <p>21.2</p> </div> <div> <p>3.7</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>全国(公立)</p> <p>74.0</p> <p>21.9</p> </div> <div> <p>4.1</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
3-2	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる											<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>富山市</p> <p>64.3</p> <p>15.5</p> </div> <div> <p>20.2</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>全国(公立)</p> <p>70.2</p> <p>15.5</p> </div> <div> <p>14.3</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
3-3	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる	5・6 キ										<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>富山市</p> <p>59.0</p> <p>31.3</p> </div> <div> <p>9.7</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>全国(公立)</p> <p>57.6</p> <p>32.9</p> </div> <div> <p>9.5</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>

【小学校 算数】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率	誤答率	無解答率			
			A 数と計算	B 図形	C 測定	D 変化と関係	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式						
1 (1)	5脚の椅子を重ねたときの高さを求める	伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる				4 (1) 7 (7)											富山市 95.3 0.4	全国(公立) 93.5 0.8
1 (2)	椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く	伴って変わる二つの数量の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる				5 (1) 4 (7)											富山市 91.1 0.9	全国(公立) 88.5 1.0
1 (3)	椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる				5 (1) 4 (7) 4 (7)											富山市 59.4 4.4	全国(公立) 55.5 3.4
1 (4)	全部の椅子の数を求めるために、 50×40 を計算する	一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかをみる	3 (3) 7 (7)														富山市 83.9 1.0	全国(公立) 80.8 1.2
2 (1)	テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	4 (1) 7 (7)														富山市 61.6 0.5	全国(公立) 59.8 0.7
2 (2)	テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く	正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	2 (1) 7 (7) 4 (1) 7 (7)														富山市 89.1 2.4	全国(公立) 87.2 2.9
2 (3)	切った開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときAの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	3 (1) 7 (7) 5 (1) 7 (7)														富山市 22.6 3.9	全国(公立) 24.9 3.7
2 (4)	テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	5 (3) 4 (7)														富山市 20.7 4.1	全国(公立) 20.8 4.0
3 (1)	2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ	()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる	4 (6) 4 (7)														富山市 74.4 1.0	全国(公立) 70.3 1.4
3 (2)	3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを欄に入れることができるかどうかを判断する	示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる	3 (5) 7 (7) 4 (4) 7 (7) 4 (7)														富山市 60.9 3.4	全国(公立) 56.7 4.0

【小学校 算数】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			正答率	誤答率	無解答率		
			A 数と計算	B 図形	C 測定	C 変化と関係	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式				記述式	
3 (3)	(151+49)×3と151×3+49×3を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求めよ	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる	4 (6) ア(7) ア(7)						○				○				富山市 76.7 21.3 2.0 全国(公立) 72.4 25.1 2.5
3 (4)	66÷3の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選べ	(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる	3 (4) イ(7) ア(7)						○				○				富山市 53.8 42.9 3.3 全国(公立) 47.6 48.5 3.9
4 (1)	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選べ	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる				5 (3) ア(4)			○				○				富山市 47.0 51.3 1.7 全国(公立) 46.0 51.6 2.4
4 (2)	運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求めよ	「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる	4 (2) ア(4)					3 (1) ア(7)	○				○				富山市 80.7 15.4 3.9 全国(公立) 75.7 20.0 4.3
4 (3)	二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く	示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる						3 (1) ア(4) イ(7)	○				○				富山市 58.5 25.6 14.9 全国(公立) 56.2 30.0 13.8
4 (4)	二次元の表から、読み取ったことの損益となる数の組み合わせを選べ	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる						4 (1) ア(7)	○				○				富山市 69.3 25.4 4.3 全国(公立) 64.6 30.5 4.9

3 中学校3年生 設問別結果一覧

【中学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点	問題形式	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> □ 正答率 ▨ 誤答率 ▩ 無解答率 </div>				
			知識及び技能						思考力、判断力、表現力等			
			(1) 言葉の特性や使い方に関する事項	(2) 情報の扱い方に関する事項	(3) 我が国の言語文化に関する事項							
			A	B	C	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
1一	インタビューの前に準備したメモについて説明したのとして適切なものを選択する	目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかをみる	1ア				○	○				<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>富山市</p> <p>87.2</p> <p>12.8</p> </div> <div> <p>0.0</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>全国(公立)</p> <p>87.5</p> <p>12.4</p> </div> <div> <p>0.1</p> </div> </div>
1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかをみる	1ア				○	○				<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>富山市</p> <p>66.1</p> <p>33.9</p> </div> <div> <p>0.0</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>全国(公立)</p> <p>65.1</p> <p>34.7</p> </div> <div> <p>0.2</p> </div> </div>
1三	相手の話を受けて発した質問について、述べ方の工夫とその意図を説明したのとして適切なものを選択する	話の内容を捉え、知りたいたい情報に合わせて効果的に質問することができるかをみる	1エ				○	○				<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>富山市</p> <p>78.9</p> <p>20.8</p> </div> <div> <p>0.3</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>全国(公立)</p> <p>76.6</p> <p>23.2</p> </div> <div> <p>0.2</p> </div> </div>
1四	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べたのか、自分の考えを書く	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかをみる	1エ				○	○				<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>富山市</p> <p>84.1</p> <p>5.7</p> <p>10.2</p> </div> <div> <p>10.2</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>全国(公立)</p> <p>82.5</p> <p>6.7</p> <p>10.8</p> </div> <div> <p>10.8</p> </div> </div>
2一	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解しているかをみる	1ウ				○	○				<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>富山市</p> <p>91.1</p> <p>8.8</p> </div> <div> <p>0.1</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>全国(公立)</p> <p>91.1</p> <p>8.7</p> </div> <div> <p>0.2</p> </div> </div>
2二	二つの文章に共通する表現の効果の説明したものとして適切なものを選択する	観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかをみる			2エ		○	○				<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>富山市</p> <p>62.9</p> <p>36.7</p> </div> <div> <p>0.4</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>全国(公立)</p> <p>63.0</p> <p>36.6</p> </div> <div> <p>0.4</p> </div> </div>
2三	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する	文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるかをみる			1ア		○	○				<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>富山市</p> <p>76.3</p> <p>23.4</p> </div> <div> <p>0.3</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>全国(公立)</p> <p>74.2</p> <p>25.5</p> </div> <div> <p>0.3</p> </div> </div>
2四	自分がこれからどのように本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかをみる			2エ		○	○		○		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>富山市</p> <p>72.0</p> <p>23.3</p> </div> <div> <p>4.7</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>全国(公立)</p> <p>67.5</p> <p>28.5</p> </div> <div> <p>3.9</p> </div> </div>
3一	レポートの下書きの一部について、文の適切を直す意図として適切なものを選択する	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかをみる			1エ		○	○				<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>富山市</p> <p>56.0</p> <p>43.5</p> </div> <div> <p>0.5</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>全国(公立)</p> <p>54.3</p> <p>45.1</p> </div> <div> <p>0.6</p> </div> </div>

【中学校 国語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容			評価の観点			問題形式			
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			選択式	短答式	記述式	
			(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	(2)情報の扱い方に 関する事項	(3)我が国の言語文化に 関すること・聞くこと	A 話すこと・書くこと	B 読むこと	C 書くこと				知識・技能
												<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div> 正答率</div> <div> 誤答率</div> <div> 無解答率</div> </div>
3二	漢字を書く（おし量つて）	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	2ウ					○			○	
3三	「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付ける見出しを書く	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	2ア					○			○	
3四	「『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる				1ウ		○			○	
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（いひける）	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる			1ア			○			○	
4二	原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す（いと）	古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる			2イ			○			○	
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる					1エ	○			○	

【中学校 数学】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式					
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式			
1	-5、0、3、4、7、9の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	1 (1) ア (7)												
2	$12(x/4+y/6)$ を計算する	数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる	2 (1) ア (7)												
3	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ	空間における平面が同一直線上にならない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる			1 (2) ア (7)										
4	yがxに反比例し、比例定数が3のとき、xの値とそれに対応するyの値について、正しい記述を選ぶ	反比例の意味を理解しているかどうかをみる			1 (1) イ (1)										
5	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる			1 (1) ア (7)										
6 (1)	はじめの数が11のとき、はじめの数にかける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる	1 (1) ア (7)												
6 (2)	はじめの数にかける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる			2 (1) イ (4)										
6 (3)	はじめの数にかける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる			2 (1) イ (4)										
7 (1)	1961年～1975年の四分位範囲を求める	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる			2 (1) ア (7)										

【中学校 数学】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式			<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> □ 正答率 ▨ 誤答率 ▩ 無解答率 </div>
			A 数と式	B 図形	C 関数	D データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	
7 (2)	「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっていく傾向にある」と主張することができる理由を、箱ひげ図の箱に着目して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる				2(1) イ 7							<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>富山市</p> <p>44.9</p> <p>35.4</p> <p>19.7</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>全国(公立)</p> <p>33.6</p> <p>43.6</p> <p>22.8</p> </div> </div> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
8 (1)	晴天大学が駅前を通過した時間と新緑大学が駅前を通過した時間の差について、グラフのどの2点のx座標の差として表れるかを書く	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうかをみる				2(1) ア 7 イ 7							<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>富山市</p> <p>59.6</p> <p>32.9</p> <p>7.5</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>全国(公立)</p> <p>57.5</p> <p>33.9</p> <p>8.6</p> </div> </div> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
8 (2)	二人の選手のグラフが直線で表されていること的前提となっている事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる				2(1) ア 7							<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>富山市</p> <p>68.6</p> <p>30.6</p> <p>0.8</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>全国(公立)</p> <p>61.7</p> <p>37.2</p> <p>1.1</p> </div> </div> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
8 (3)	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる				2(1) イ 7							<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>富山市</p> <p>45.2</p> <p>38.8</p> <p>16.0</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>全国(公立)</p> <p>42.8</p> <p>44.0</p> <p>13.2</p> </div> </div> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
9 (1)	2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する	ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる				2(1) イ 7							<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>富山市</p> <p>34.4</p> <p>41.2</p> <p>24.4</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>全国(公立)</p> <p>32.1</p> <p>43.2</p> <p>24.7</p> </div> </div> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>
9 (2)	二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに平行線がかけないことについて、二等辺三角形のときの証明の中から成り立たなくなる式を書く	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることができるかどうかをみる				2(2) ア 7 イ 7							<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>富山市</p> <p>40.5</p> <p>48.0</p> <p>11.5</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>全国(公立)</p> <p>37.0</p> <p>48.8</p> <p>14.2</p> </div> </div> <p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>

【中学校 英語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式		
			(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと「やり取り」	(4) 話すこと「発表」	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
													<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; width: 15px; height: 15px; background-color: white;"></div> 正答率 <div style="border: 1px solid black; width: 15px; height: 15px; background-color: #cccccc; margin-left: 10px;"></div> 誤答率 <div style="border: 1px solid black; width: 15px; height: 15px; background-color: #999999; margin-left: 10px;"></div> 無解答率 </div>
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○		
1 (2)	道案内の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○		
1 (3)	買物の場面における会話を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	○					○			○		
2	忘れ物に関する情報を得るために自動音声案内を聞き、最も適切な番号を選択する	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア					○			○		
3	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	ア					○			○		
4	水問題についての話を聞き、話し手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる	ウ					○			○		
5 (1)	ある状況を描写する英文を読み、その内容を最も適切に表しているグラフを選択する	情報を正確に読み取ることができるかどうかをみる	○					○			○		
5 (2)	事実や考えが書かれた英文を読み、考えを表している英文を選択する	「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むことができるかどうかをみる	○					○			○		
6	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる	ア					○			○		
7 (1)	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる	○					○			○		
7 (2)	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる	イ					○			○		

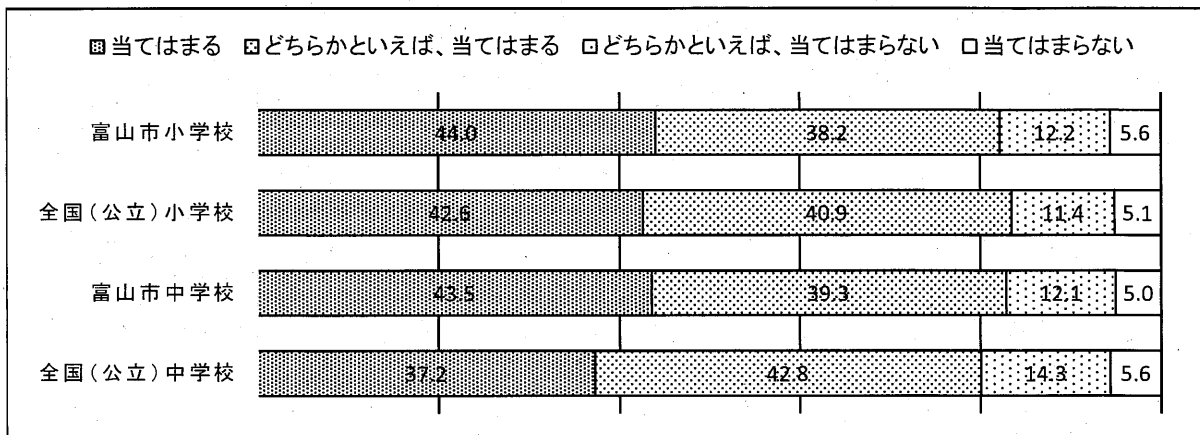
【中学校 英語】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; width: 15px; height: 15px; background-color: white;"></div> 正答率 <div style="border: 1px solid black; width: 15px; height: 15px; background-color: #cccccc; margin-left: 10px;"></div> 誤答率 <div style="border: 1px solid black; width: 15px; height: 15px; background-color: #808080; margin-left: 10px;"></div> 無解答率 </div>									
			(1) 聞くこと	(2) 読むこと	(3) 話すこと【やり取り】	(4) 話すこと【発表】	(5) 書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式										
8 (1)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の最も伝えたい内容を選択する	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる		ウ						○		○			<table border="1" style="margin-top: 5px;"> <tr> <td>富山市</td> <td>59.9</td> <td>39.4</td> <td>0.7</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>56.1</td> <td>43.1</td> <td>0.8</td> </tr> </table>	富山市	59.9	39.4	0.7	全国(公立)	56.1	43.1	0.8
富山市	59.9	39.4	0.7																				
全国(公立)	56.1	43.1	0.8																				
8 (2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる								○			○		<table border="1" style="margin-top: 5px;"> <tr> <td>富山市</td> <td>21.9</td> <td>50.2</td> <td>27.9</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>19.5</td> <td>51.2</td> <td>29.3</td> </tr> </table>	富山市	21.9	50.2	27.9	全国(公立)	19.5	51.2	29.3
富山市	21.9	50.2	27.9																				
全国(公立)	19.5	51.2	29.3																				
9 (1) ①	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる								ア	○			○	<table border="1" style="margin-top: 5px;"> <tr> <td>富山市</td> <td>45.3</td> <td>49.8</td> <td>4.9</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>40.4</td> <td>53.0</td> <td>6.6</td> </tr> </table>	富山市	45.3	49.8	4.9	全国(公立)	40.4	53.0	6.6
富山市	45.3	49.8	4.9																				
全国(公立)	40.4	53.0	6.6																				
9 (1) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる								ア	○			○	<table border="1" style="margin-top: 5px;"> <tr> <td>富山市</td> <td>21.7</td> <td>69.3</td> <td>9.0</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>20.9</td> <td>68.7</td> <td>10.9</td> </tr> </table>	富山市	21.7	69.3	9.0	全国(公立)	20.9	68.7	10.9
富山市	21.7	69.3	9.0																				
全国(公立)	20.9	68.7	10.9																				
9 (2)	メールの英文を依頼する表現に書き換える	「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる								ア	○			○	<table border="1" style="margin-top: 5px;"> <tr> <td>富山市</td> <td>34.3</td> <td>41.9</td> <td>23.8</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>29.0</td> <td>46.5</td> <td>24.5</td> </tr> </table>	富山市	34.3	41.9	23.8	全国(公立)	29.0	46.5	24.5
富山市	34.3	41.9	23.8																				
全国(公立)	29.0	46.5	24.5																				
10	学校生活(行事や部活動など)の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる									イ	○		○	<table border="1" style="margin-top: 5px;"> <tr> <td>富山市</td> <td>8.2</td> <td>68.8</td> <td>23.0</td> </tr> <tr> <td>全国(公立)</td> <td>7.4</td> <td>71.2</td> <td>21.4</td> </tr> </table>	富山市	8.2	68.8	23.0	全国(公立)	7.4	71.2	21.4
富山市	8.2	68.8	23.0																				
全国(公立)	7.4	71.2	21.4																				

4 児童生徒質問調査 (★のついた質問は、今年度新しく掲載した質問)

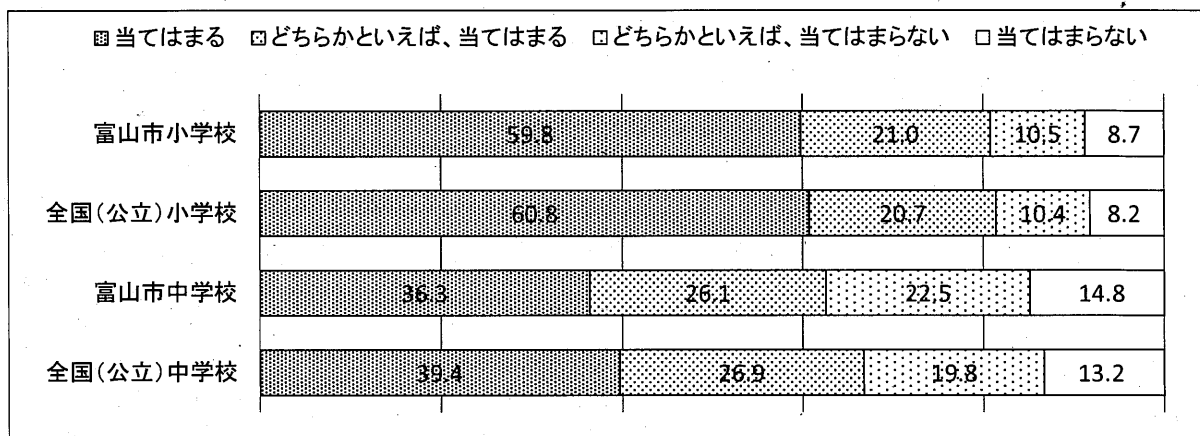
【自尊感情】

1 自分には、よいところがあると思いますか。



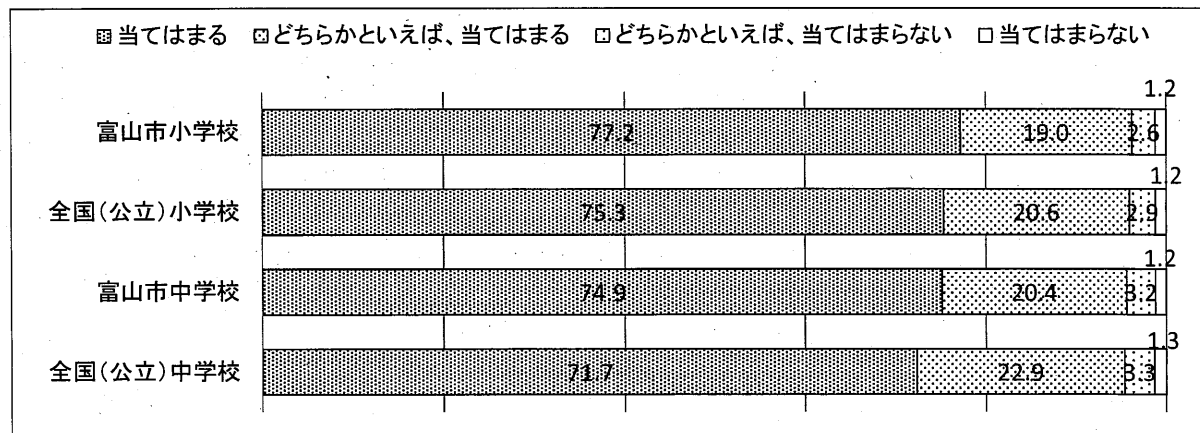
※ 「自分にはよいところがあると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童の割合は全国とほぼ同じであるが、生徒の割合は全国よりやや高い。

2 将来の夢や目標を持っていますか。



※ 「将来の夢や目標を持っている」「どちらかといえば、持っている」児童の割合は全国とほぼ同じであるが、生徒の割合は全国よりやや低い。

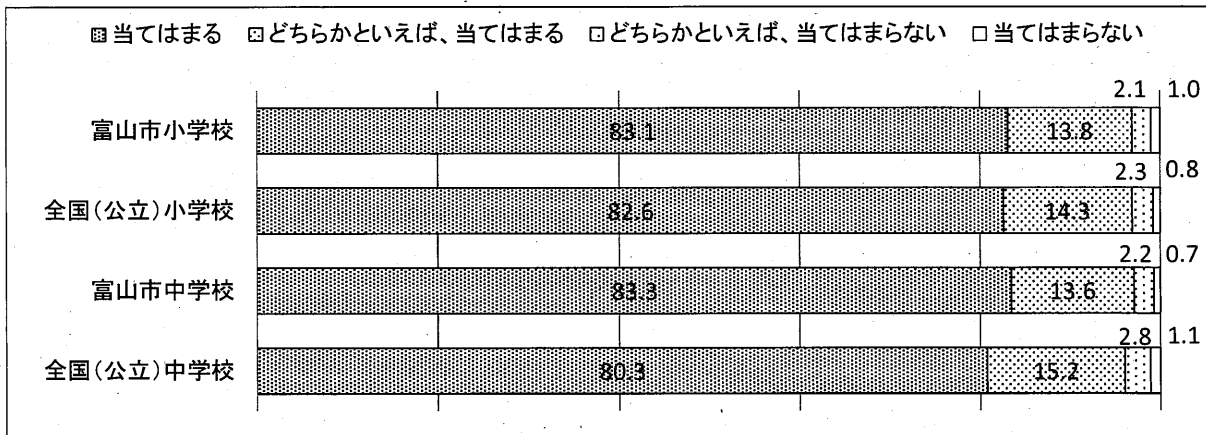
3 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



※ 「人の役に立つ人間になりたいと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

【規範意識】

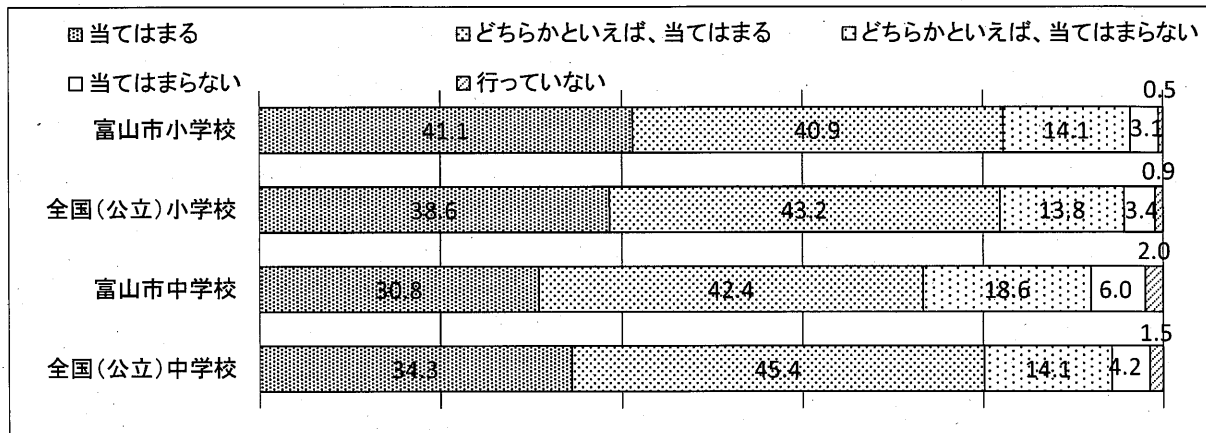
4 いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



※ 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

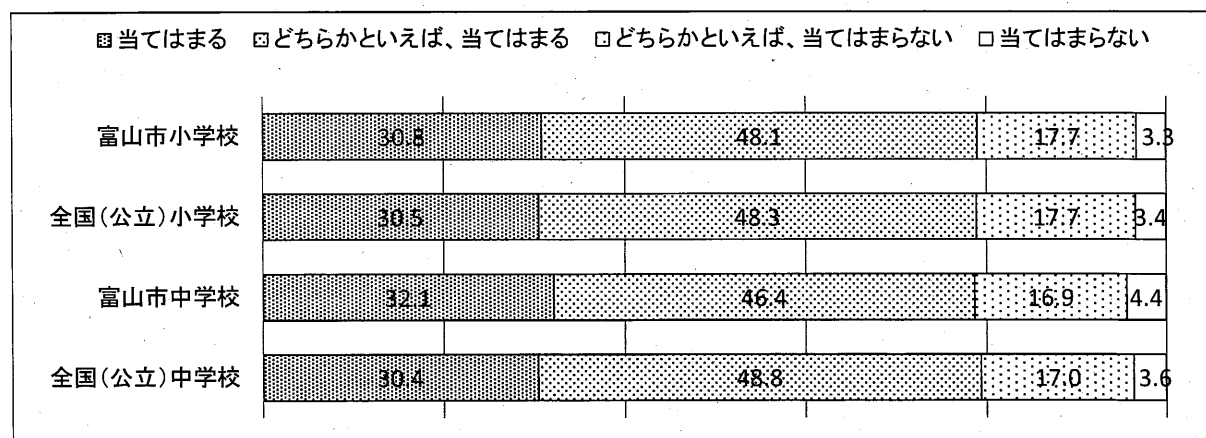
【授業での活動】

5 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていると思いますか。



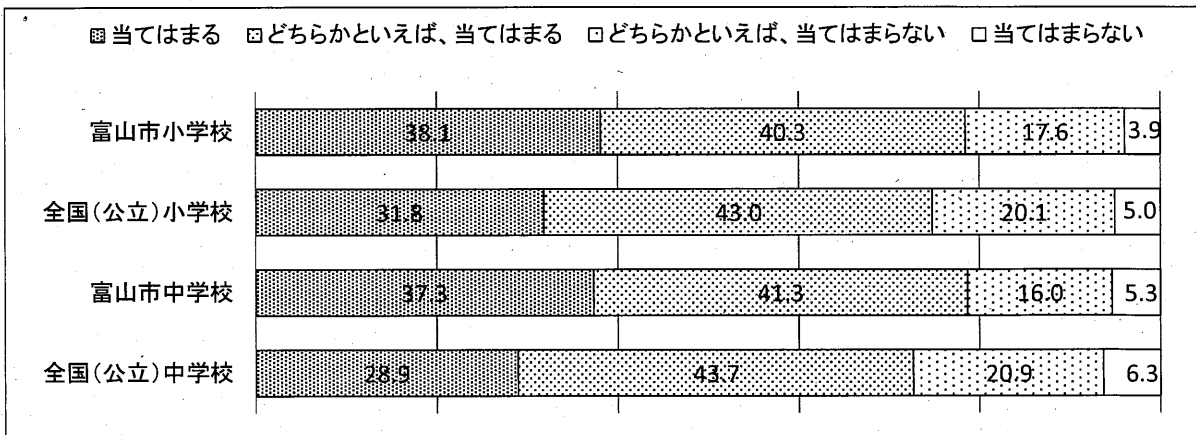
※ 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていたと思う」「どちらかといえば思う」児童の割合は全国とほぼ同じであるが、生徒の割合は全国より低い。

6 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。



※ 「授業では、課題に対して、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」「どちらかといえば、そう思う」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

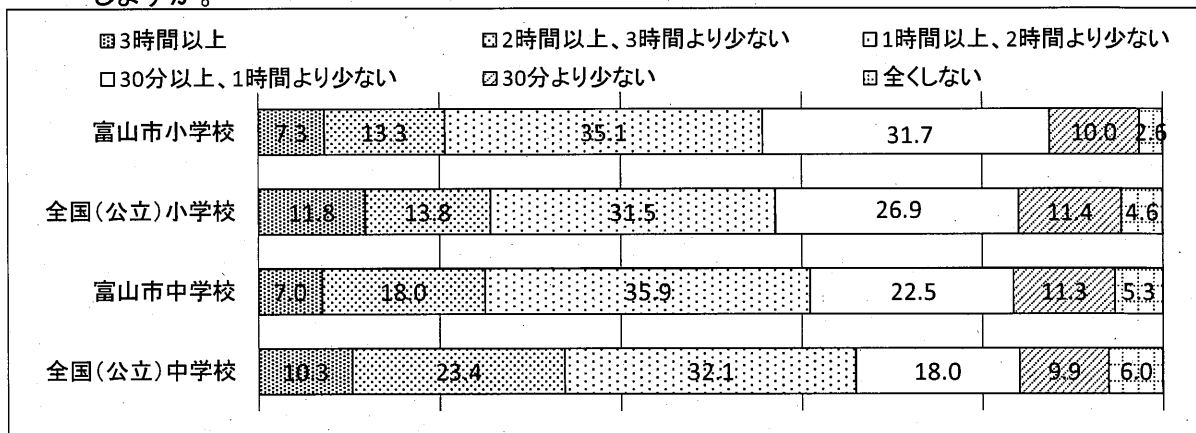
7 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか。



※ 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいると思う」「どちらかといえば、そう思う」児童の割合は全国よりやや高く、生徒の割合は全国より高い。

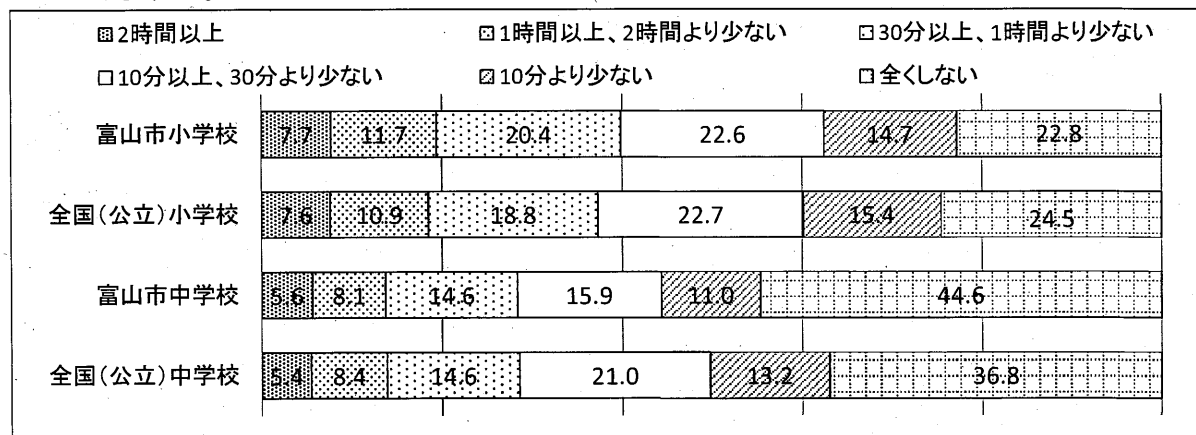
【家庭学習】

8 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



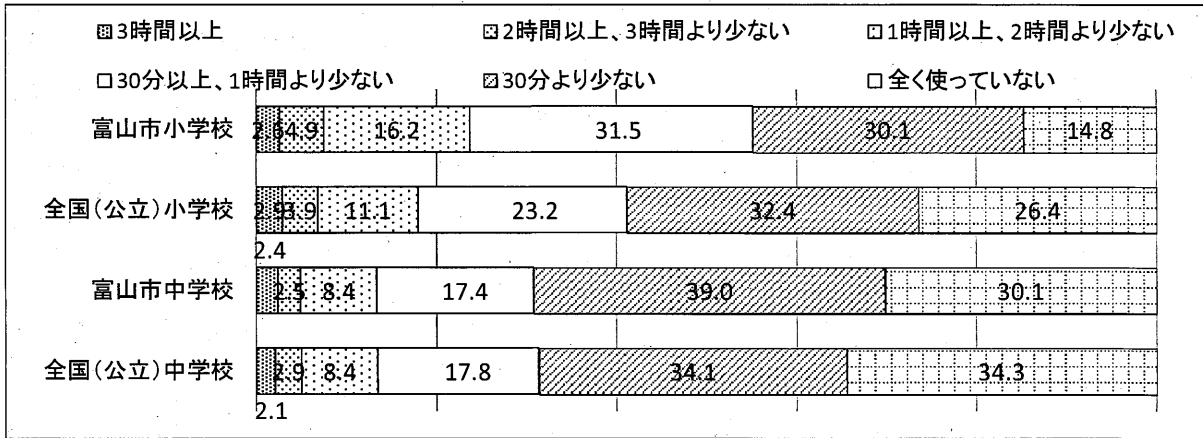
※ 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1時間以上勉強をしている」児童の割合は全国とほぼ同じであるが、生徒の割合は全国よりやや低い。

9 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。



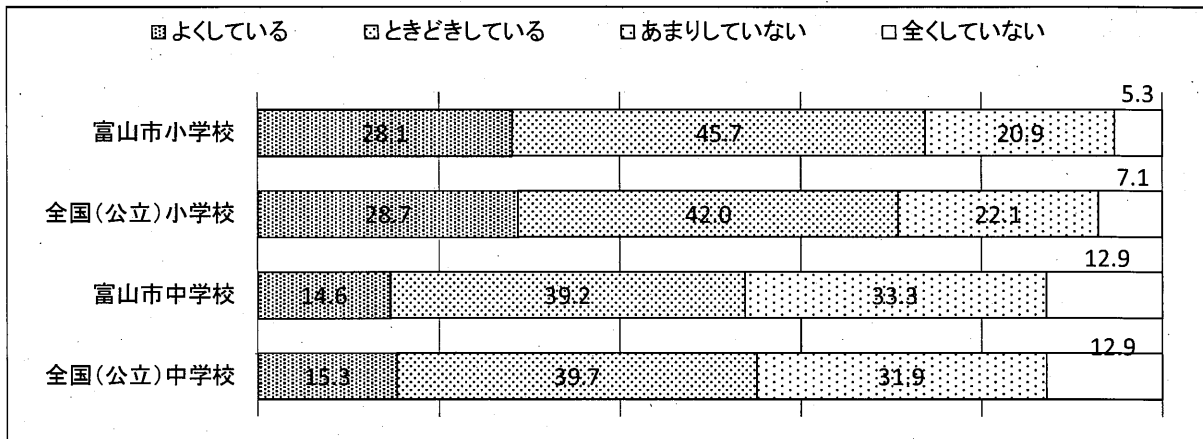
※ 「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、家や図書館で30分以上読書をしている」児童の割合は全国よりやや高いが、生徒の割合は全国とほぼ同じである。

10 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を勉強のために使っていますか。



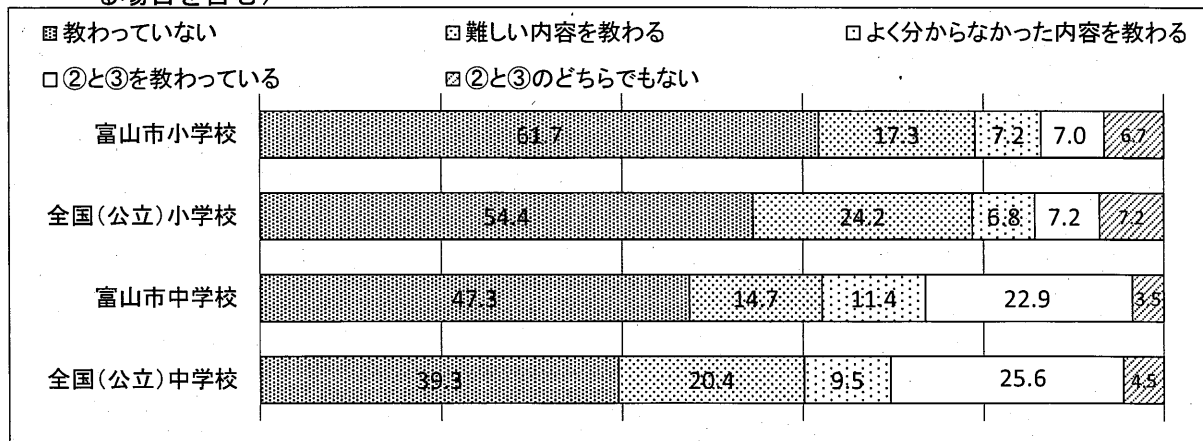
※ 「普段(月～金曜日)、30分以上スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を勉強のために使っている」児童の割合は全国よりかなり高いが、生徒の割合は全国とほぼ同じである。

11 ★家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)



※ 家で自分で計画を立てて勉強を「よくしている」「ときどきしている」児童の割合は全国よりやや高いが、生徒の割合は全国とほぼ同じである。

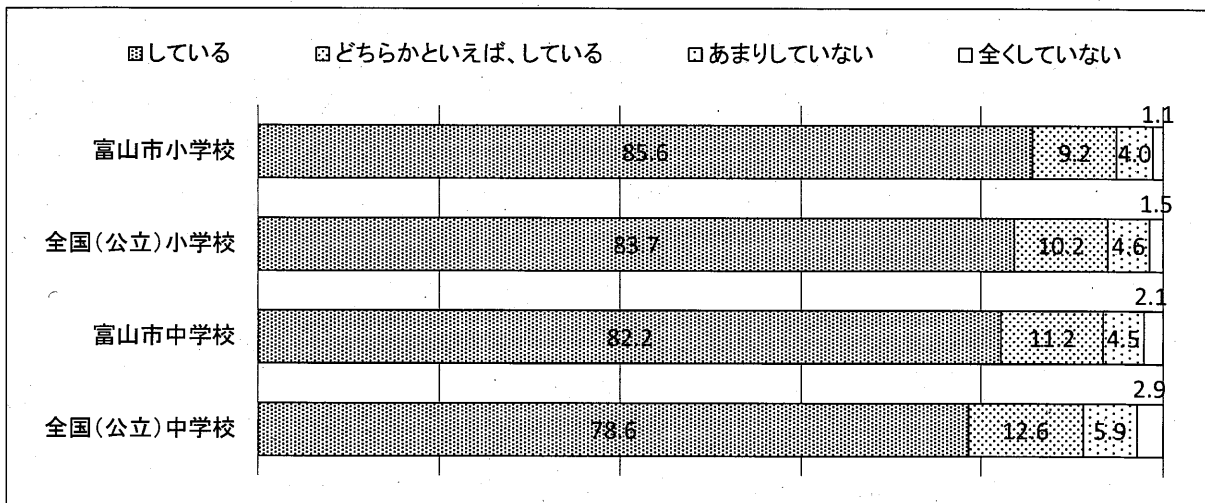
12 ★学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか(インターネットを通じて教わっている場合を含む)



※ 学習塾の先生や家庭教師の先生に「学校の勉強より進んだ内容や、難しい内容を習っている」「学校の勉強でよく分からなかった内容を教わっている」「両方の内容を教わっている」「どちらでもない内容を教わっている」児童生徒の割合は全国より低い。

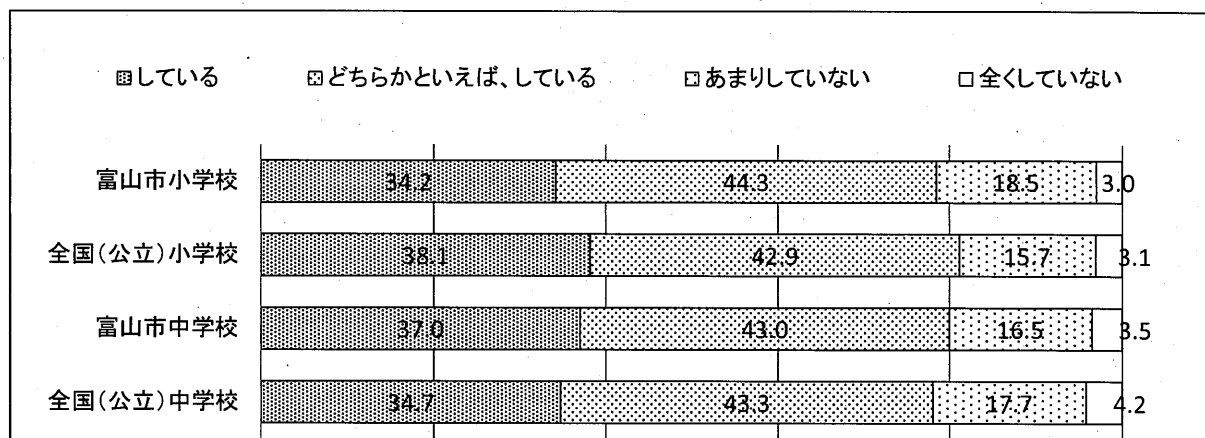
【家庭での生活】

13 朝食を毎日食べていますか。



※ 「朝食を毎日食べている」「どちらかといえば、食べている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

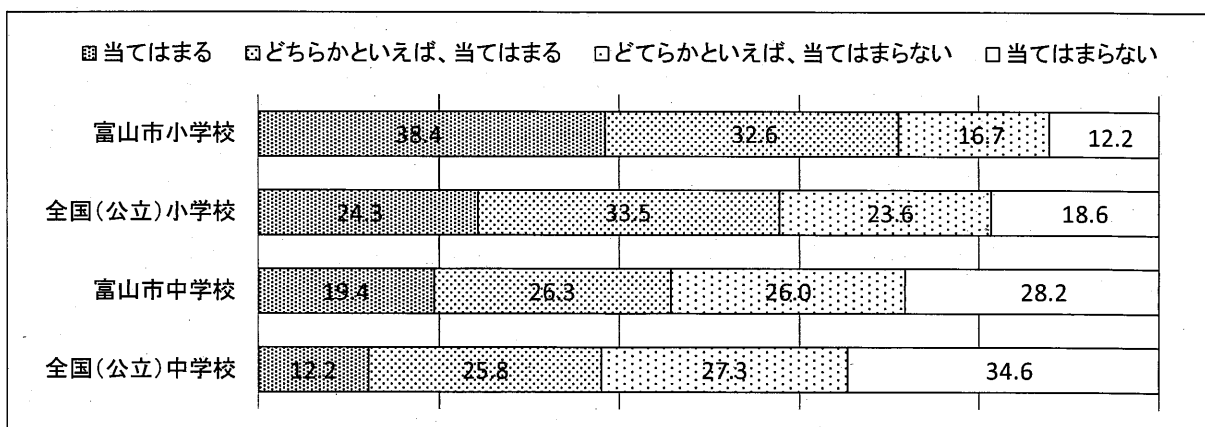
14 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。



※ 「同じ時刻に寝ている」「どちらかといえば、寝ている」児童生徒の割合は全国とほぼ同じである。

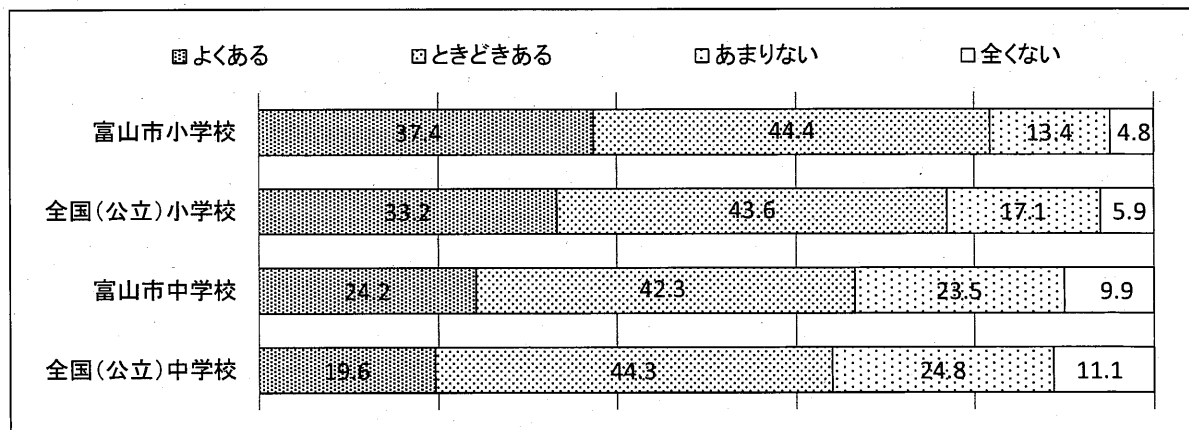
【地域や社会に対する興味・関心】

15 今住んでいる地域の行事に参加していますか。



※ 「地域の行事に参加している」「どちらかといえば、している」児童の割合は全国よりかなり高く、生徒の割合は全国より高い。

16 ★地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか



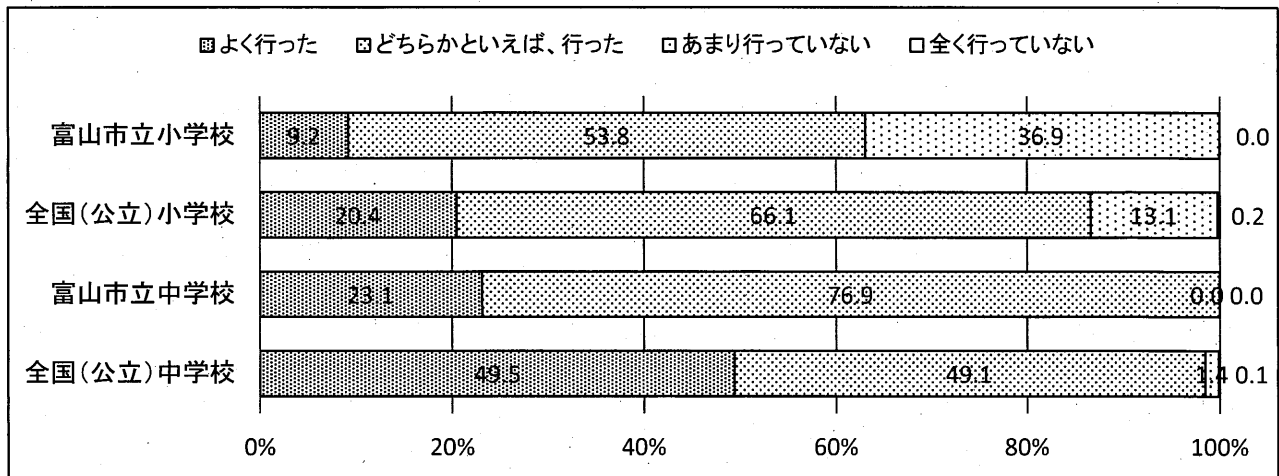
※ 地域や社会をよくするために何かしてみたいに「当てはまる」「どちらかといえ
ば、当てはまる」児童の割合は全国より高く、生徒の割合は全国よりやや高い。

5 学校質問紙調査 (◎のついた質問は、今年度新しく掲載した質問)

※ その他・無回答は、データに含んでいない。

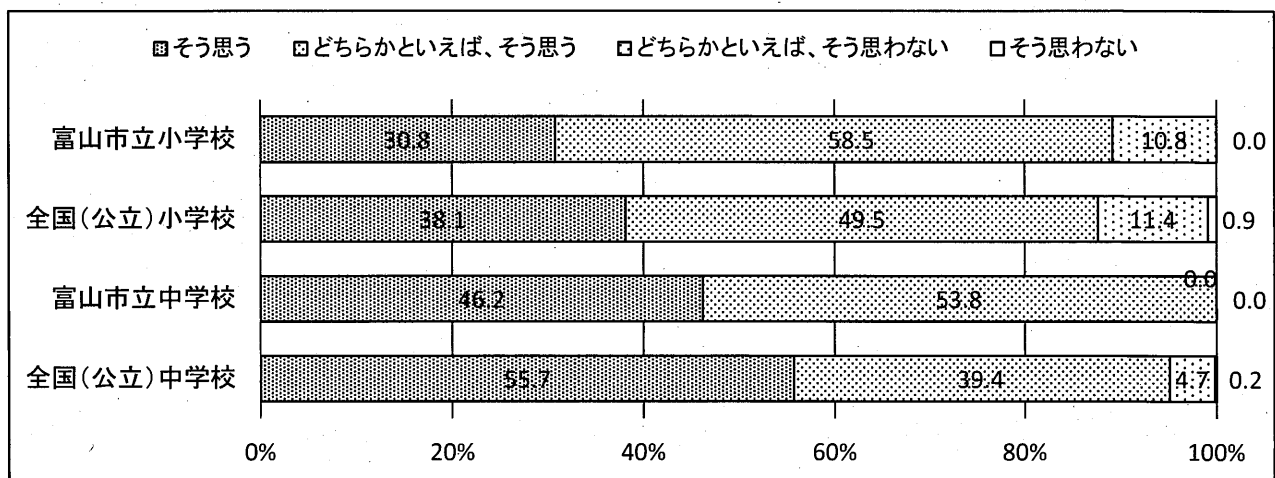
【児童・生徒指導等】

1 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした



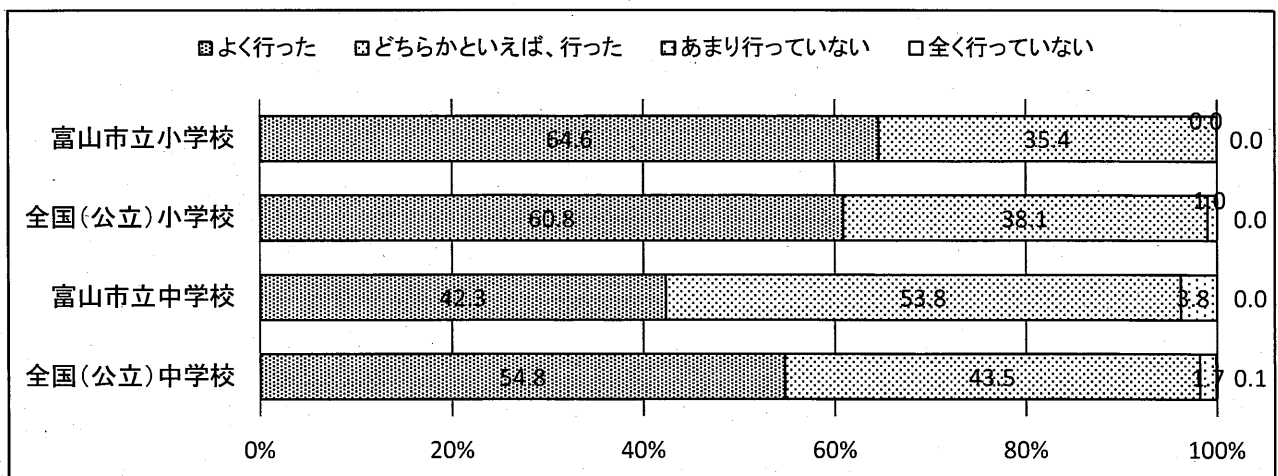
※ 「よく行った」「どちらかといえば、よく行った」学校の割合は、全国と比べて、小学校はかなり低く、中学校はほぼ同じである。

2 ◎授業中の私語が少なく、落ち着いている



※ 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」学校の割合は、全国と比べて、小学校はほぼ同じで、中学校はやや高い。

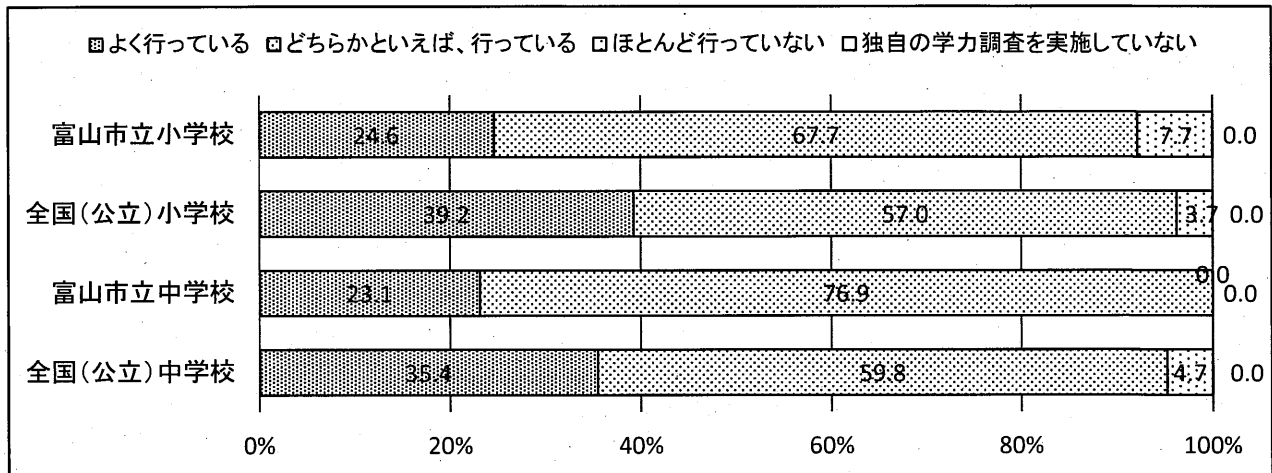
3 学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組を行った



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国と比べて、小学校はほぼ同じで、中学校はやや低い。

【学校運営に関する状況】

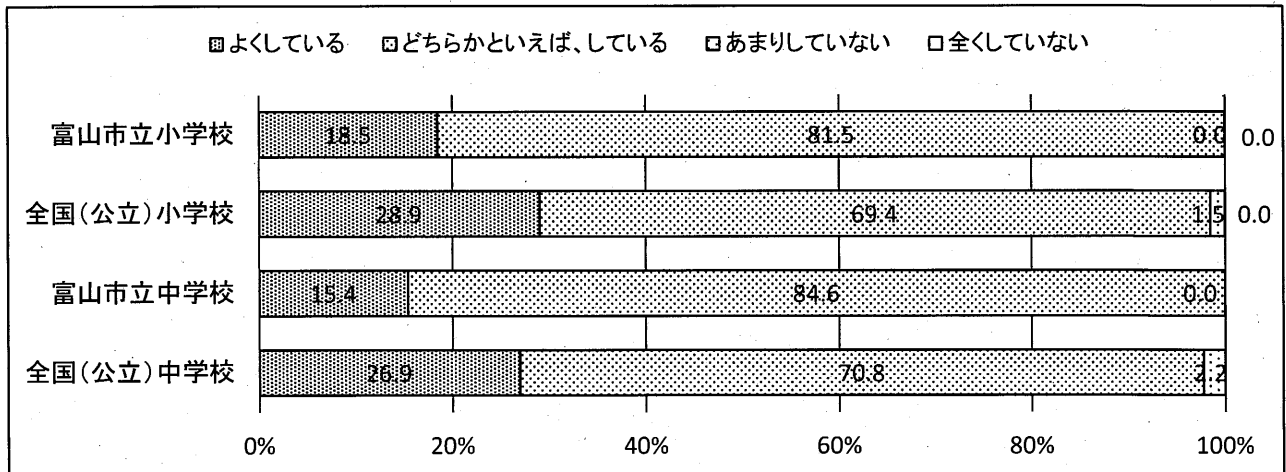
- 4 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している



※ 「よく行っている」「どちらかといえば、行っている」学校の割合は、全国と比べて、小学校はやや低く、中学校はやや高い。

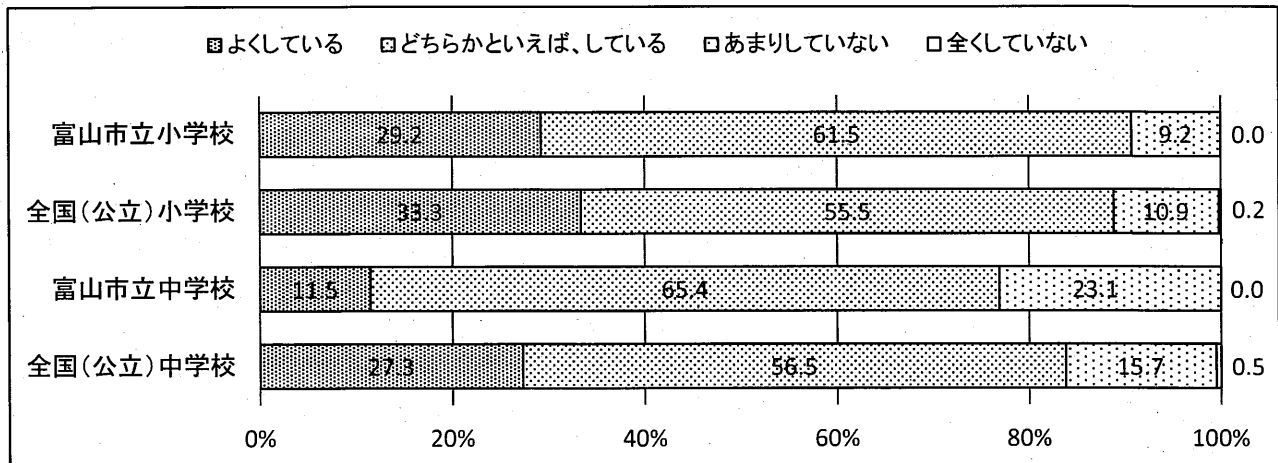
- 5 小学校…ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)に取り組んでいますか

中学校…◎ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか



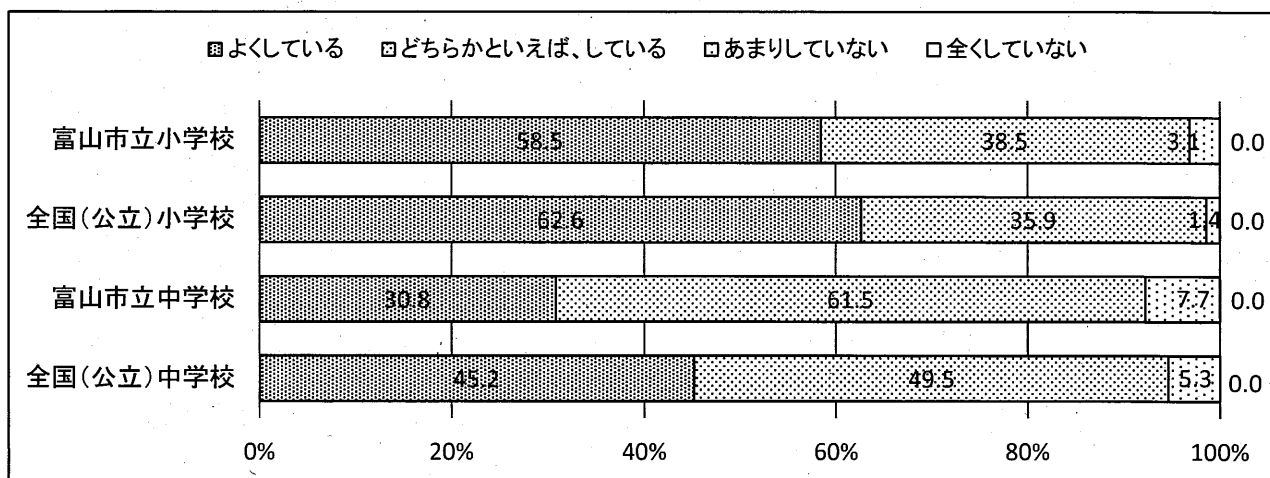
※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国と比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じである。

- 6 児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国と比べて、小学校はほぼ同じで、中学校は低い。

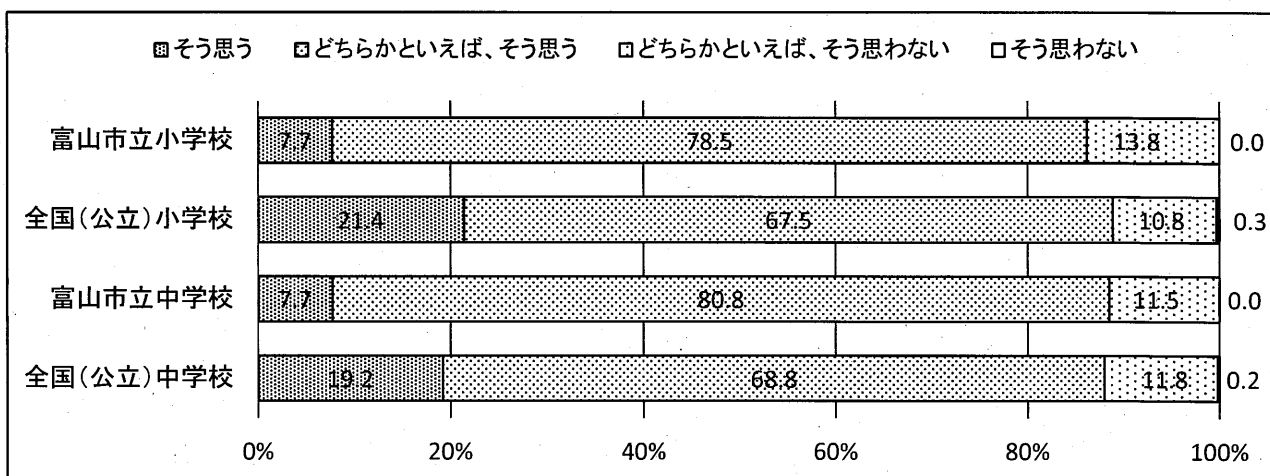
7 授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っている



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」学校の割合は、全国と比べて、小学校・中学校ともにほぼ同じである。

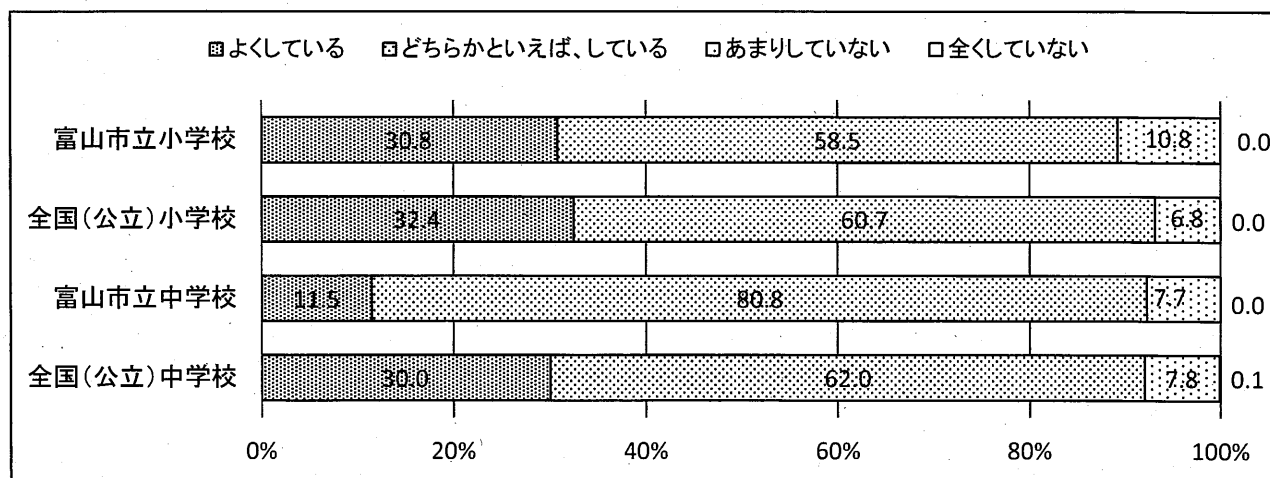
【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

8 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる



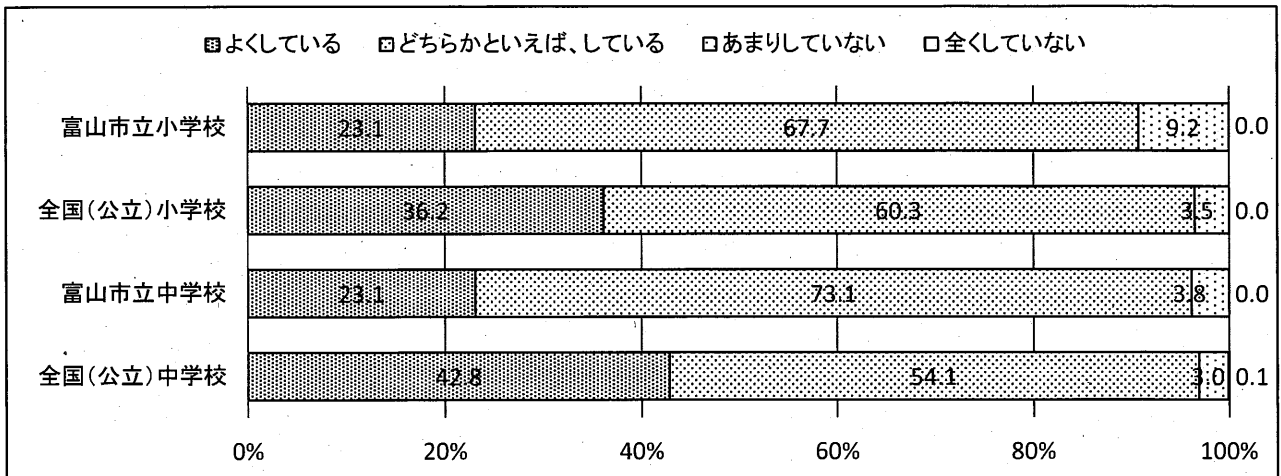
※ 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合は、全国と比べて、小学校はやや低く、中学校はほぼ同じである。

9 学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている



※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合は、全国と比べて、小学校はやや低く、中学校はほぼ同じである。。

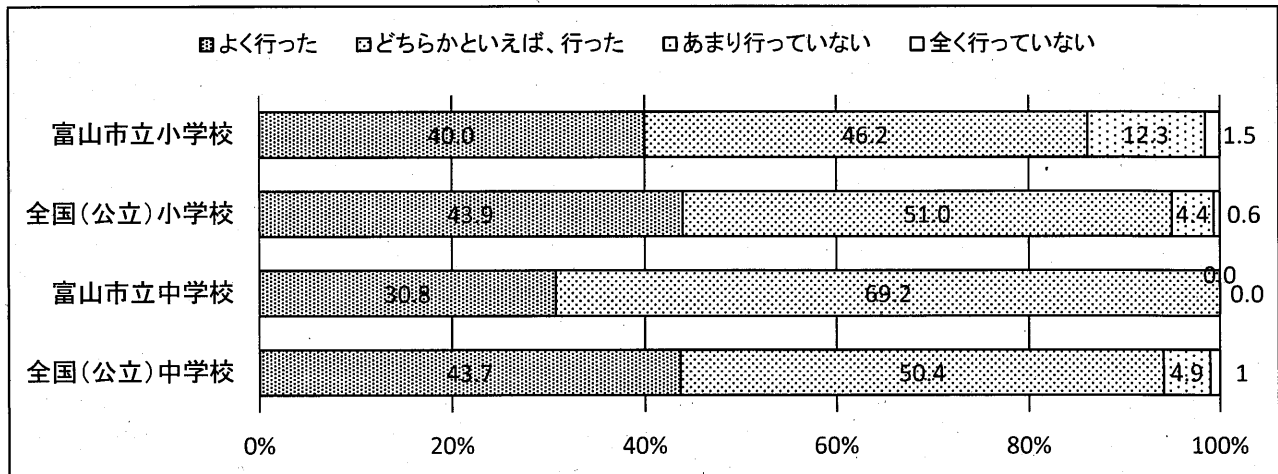
10 特別の教科 道徳において、児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている



※ 「よく行っている」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校はほぼ同じである。

【特別支援教育】

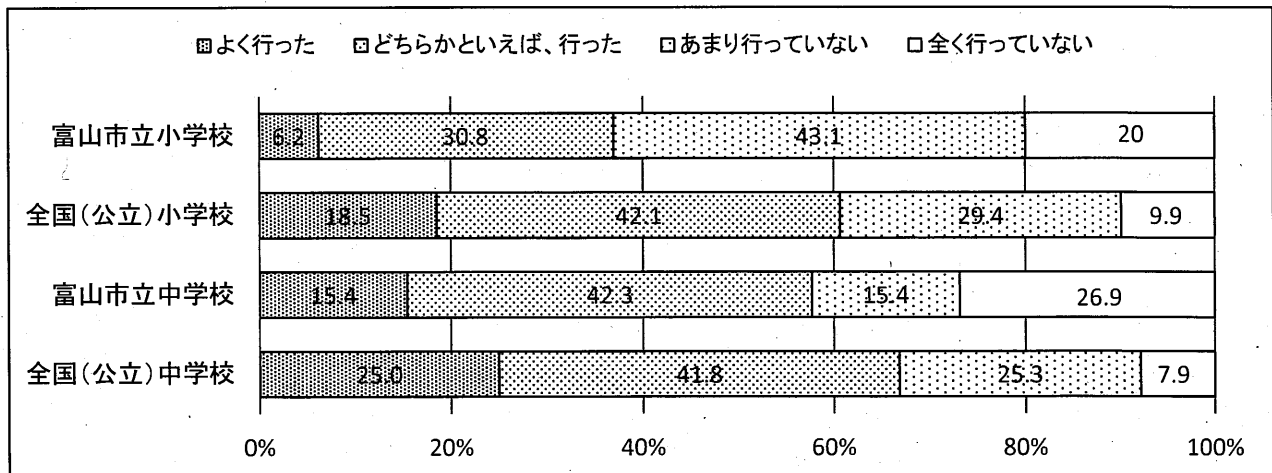
11 学校の教員は、特別支援教育について理解し、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫等)をしたか



※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校は高い。

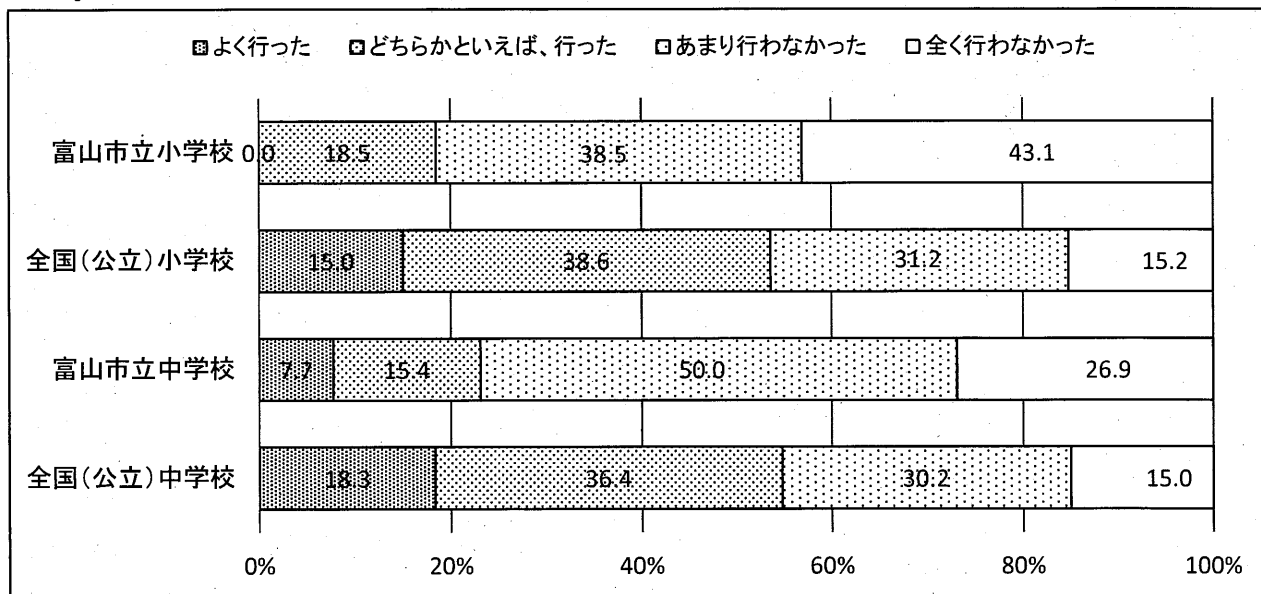
【小学校教育と中学校教育の連携】

12 近隣等の小(中)学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取り組みを行った



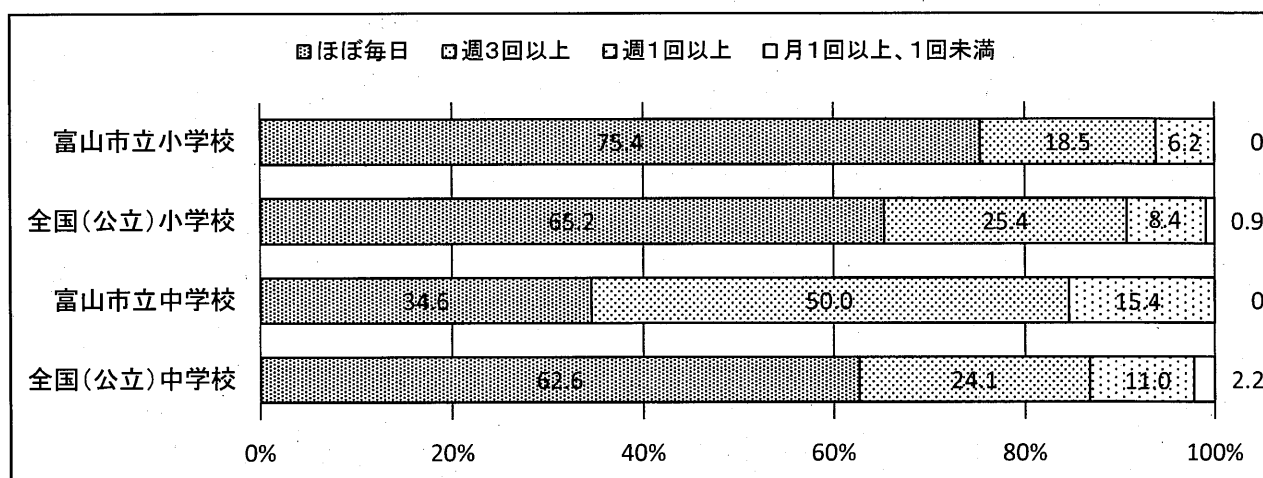
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はかなり低く、中学校は低い。

13 ◎令和4年度全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小中学校と成果や課題を共有したか。



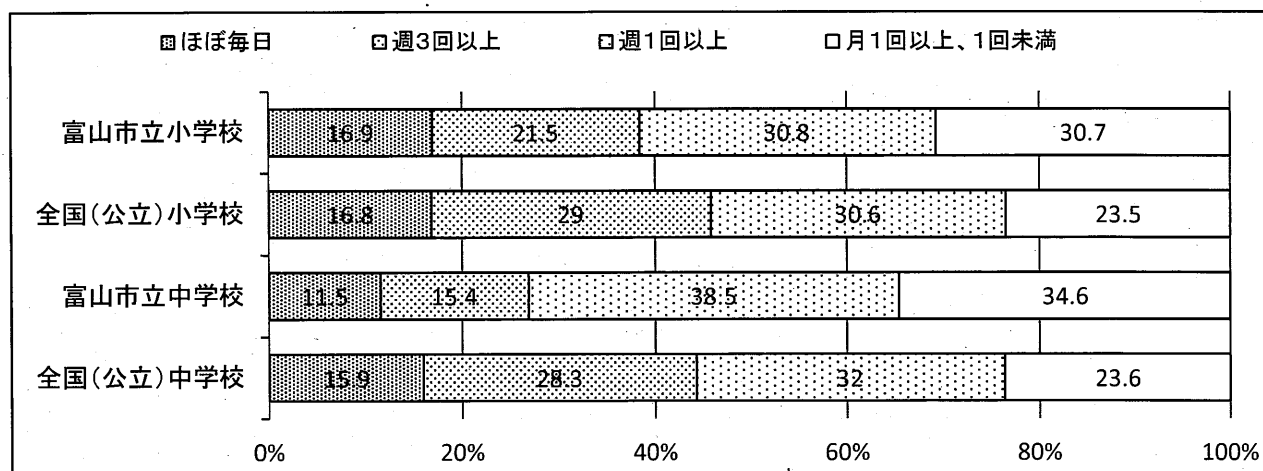
※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」学校の割合は、全国に比べて、小・中学校ともかなり低い。

14 ◎一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用したか。



※ 「ほぼ毎日」「週3回以上」学校の割合は、全国に比べて、小学校はやや高く、中学校はほぼ同じである。

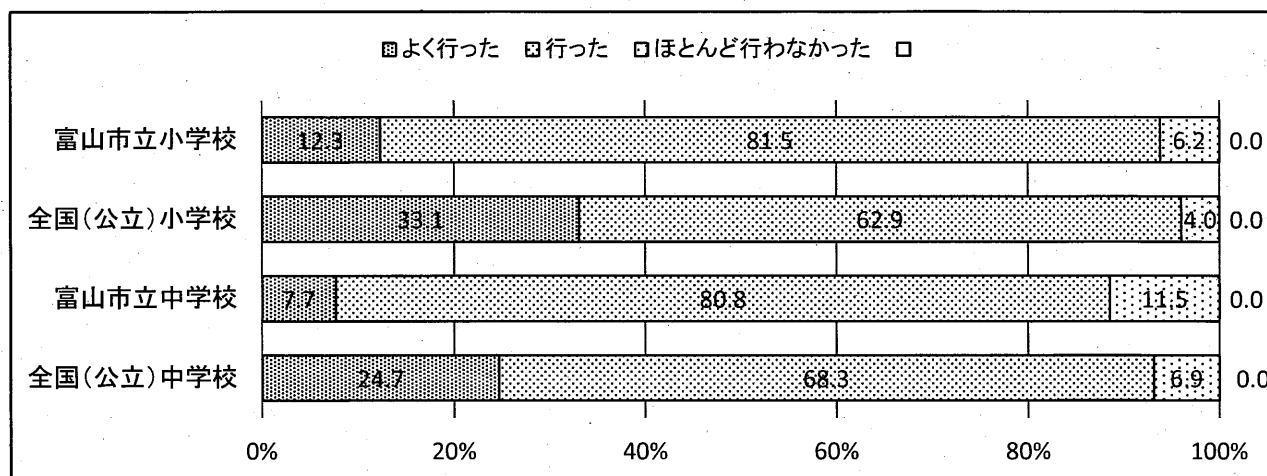
15 ◎自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用したか。



※ 「ほぼ毎日」「週3回以上」学校の割合は、全国に比べて、小学校は低く、中学校はかなり低い。

【調査結果の活用】

16 ◎令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した



※「よく行った」「行った」学校の割合は、全国に比べて、小学校はほぼ同じで、中学校はやや低い。